

# 演劇会議

## '70 演劇行動参加戯曲集

|                |             |
|----------------|-------------|
| 演劇行動戯曲集刊行にあたって | 1           |
| 『署名』           | 栗木英章 3      |
| 『夜』            | 黒沢参吉 6      |
| 『片隅から』         | 小島真木 12     |
| 『小さな駅のある物語』    | 島源三 18      |
| 『オキナワ』         | こばやしひろし 28  |
| ■ 作品にそくして      | 萩坂桃彦 38     |
| ■ 全作品装置デザイン    | 内山千吉 42     |
| 『事前協議』         | 和田澄子 44     |
| 『モーレツ教育』       | 文工隊「芸労」 53  |
| 『通話停止執行』       | 長谷川伸二 57    |
| 『ひろしま1969』     | 土屋清他 62     |
| ■ 選定後記         | 森本景文・藤沢薫 68 |
| ■ 既刊号目録        | 70          |

別冊  
1

1970年2月

¥180

心をゆたかにする  
良書をあなたに!

只今社員を募集中です

◇営業社員◇集金社員

いずれも高卒以上

20 → 40 才まで

詳細は下記へお問合せ下さい

# HOLP

HOME LIBRARY PROMOTION

家庭の図書室づくり

世界大百科事典 平凡社 全 26 巻  
 国民百科事典 平凡社 全 8 巻  
 学習百科大事典 学研 全 10 巻  
 えほん百科 平凡社 全 6 巻  
 大漢和辞典 大修館 全 13 巻  
 各種文学・歴史・美術全集

しかも

- (1) 全巻先渡し お申込みと同時に全巻揃えてお届けします
- (2) 分割払い 読み乍らお支払い下さい毎月1,000円程度の分割払いです
- (3) 無料直送 日本中どこでも運賃当社負担でお届けします

お問合せ・お申込みは 株式会社 図書月販

横浜支社

横浜市神奈川区鶴屋町2-16 鶴屋町ビル

TEL 045-311-2943

北から南へ日本縦断

# 70 演劇行動を

成功させよう!!

(集中月間 4 - 5 - 6 月)

## 東日本リアリズム演劇会議

(事務局・劇団静芸内)

## 西日本リアリズム演劇会議

(事務局・劇団月曜会内)

|           |                         |          |                             |
|-----------|-------------------------|----------|-----------------------------|
| 劇団さっぽろ    | 札幌市月寒東 1-8              | 関西芸術座    | 大阪市阿倍野区文ノ里 4-18-5           |
| 劇団新劇場     | 旭町 10                   | 劇団 なぎ    | 東成区中道元町 2-96<br>八阪神社内       |
| 弘前演劇研究会   | 弘前市品川町 1                | 演劇集団息吹   | 八尾市堤町 1-40                  |
| 仙台小劇場     | 仙台市鉄砲町 1 気象台内           | 南大阪演劇研究会 | 大阪市大正区泉尾中通<br>3-12 神田荘赤松方   |
| 群馬 中芸     | 前橋市昭和町 3-15-2           | 劇団 潮流    | 南区上本町 4-625<br>巖ビル          |
| 演劇集団土の会   | 東京都港区西麻布 4-5-9          | 劇団 未来    | 住吉区长居町東 4-52<br>山田方         |
| 舞芸小劇場     | 豊島区西池袋 3-5-19           | 大阪協同劇場   | 吹田市津雲台 5-15 D 33-307<br>奥井方 |
| 劇団 労芸     | 品川区南大井 1-14-16          | 人形劇団クラルテ | 大阪市住吉区南加賀屋町<br>16           |
| 劇団 協同     | 東京都国立市北 3-2             | 劇団 京芸    | 京都市伏見区納所北城堀<br>31-18        |
| 青年劇場      | 東京都葛飾区水元小合町 1941        | 人間座      | 北區柴野大徳寺電停前<br>京都視力センタービル    |
| 劇団 埼芸     | 川口市鎮家 5-1-69            | 人形劇団京芸   | 下京区河原町七条東<br>材木町 河合方        |
| 京浜協同劇団    | 川崎市古市場 2-109            | 劇団四紀会    | 神戸市兵庫区荒田町 3-6<br>宝地院内       |
| よこはま青年座   | 横浜市中区範の上 129            | 劇団 福演    | 福山市本町 3-3 杉原方               |
| 劇団やまなみ    | 甲府市青沼 1-8-5             | 劇団月曜会    | 広島市庚午北 2-12-28<br>土屋方       |
| 信濃小劇場     | 松本市深志 2-6-8             | 劇団こじか座   | 松山市垂水町 87                   |
| 劇団 静芸     | 静岡市昭府町 289-2            | 劇団桑の実    | 今治市中寺松並木 1118<br>横田方        |
| 劇団つくしの会   | 富士宮市西町 20-2             | 劇団若者座    | 宇部市常盤町 1-1-2<br>岡田方         |
| 劇団からつかぜ   | 浜松市飯屋町 315              | 福岡現代劇場   | 福岡市南庄 1-87                  |
| 演研てくのほうの会 | 名古屋市南区大藏通り<br>3-12      | 劇団生活舞台   | 福岡市警四丁目 9-18                |
| 名古屋演劇集団   | 中区栄 4丁目 9-26<br>大東ビル    |          |                             |
| 四日市市民劇場   | 四日市市栄町 4-9<br>アングレセンター内 |          |                             |
| 劇団すがお     | 桑名市大福 229-1             |          |                             |
| 上野市民劇場    | 上野市丸ノ内中央公民館内            |          |                             |
| 劇団はぐるま    | 岐阜市西野町 1                |          |                             |

## 「七〇演劇行動」 戯曲集刊行にあたって

「七〇演劇行動」のための戯曲集を、「演劇会議」の特集号としてお届けします。

「七〇演劇行動」の企画は、昨年一月郡山市でひらいた東リ演劇運営委員会に、劇団はぐるまからの提案によってスタートし、二月名古屋での東西リ演合同会議のなかで、東西共同の事業にすることが確認され、ついで四月に開催された双方の創作会議、戯曲研究集会で、企画の細目とともに、行動センターとして東は劇団はぐるま、西は劇団未来に担当をおねがいました。

行動の第一段階は、オムニバス形体で上演する戯曲を、加盟劇団とそのまわりの書き手によって創作することであり、作品の第一次ノ切は七月末におかれたのですが、実際に作業がすすみはじめたのは、東西ともに八月の総会で、「七〇演劇行動」の意義と内容、そしてたちおくれの現状が明らかにされ、それを乗りこえる意志統一が全劇団によってなされた以降のことです。

とくに三六集団一六七名の参加をえた第九回演劇セミナーが東リ演劇センターのアピールにこたえ、「七〇演劇行動」をこの年度の中心課題にすえて活動し、その実践の総括を第一〇回セミナーへ集中しよう、と決議したことは、行動をおしすすめる強力な根拠になりました。

総会では行動のための予算も具体化し、二種のステッカーもで

きあがり、牽引車としてのセンターの力量も発揮されて、九月末には東リ演で一六本、西リ演で一〇本の創作戯曲があつりました。一〇月中旬、東西の選定委員会は全作品を検討選定すると同時に、いくつかの作品については具体的な改稿の要請をおこないました。この間の過程は、萩坂、森本、藤沢三氏の記事に詳しいので省きますが、一二月一四日本戯曲集に掲載する九本の戯曲について、最終選定をおえました。

この戯曲集は最初、東西それぞれの作品を二本のオムニバス形体に連鎖させる計画であったのですが、ひとつにはその衝にあたる仲、黒沢両氏が多忙のため執筆の条件をかけたこと、ふたつには現在たてられている各劇団の上演計画が、必しも選定委員会の選定に拘束されず自由なオムニバス編成を企画していることからあえて九作品を並列する編集にあつたためでした。

「七〇演劇行動」のよびかけにこたえて、二六篇もの創作戯曲が生みだされたことは大きく評価されねばなりません。(この他にノ切に間にあわなかったが、劇団単位の行動のために現在すすめられている創作をふくめると、相当の量にたつすることでしょう)これは、七〇年安保廃棄・沖縄全面返還を実現するたたかいへ演劇を武器として参加する各劇団と書き手の積極的な姿勢を反映しています。同時に多くの劇団が、創作劇をもとめ、その書き手

の育成に努めていること、東西リ演がつみあげてきた戯曲研究会や創作学校などの成果があらわれつつあることも示しています。掲載作品をふくめ全作品の内容については、これからはじまる上演活動をはじめ、創作会議等で正しい評価がおこなわれるとおもいますが、今回の貴重な経験を基礎にして、これからの東西リ演の創作運動を発展させていく必要があります。

「七〇演劇行動」はこの戯曲集の発行によって緒につきます。一部の劇団ではすでに準備に入っていますが、これで全体の劇団がクワワをならべて行動にうつれるようになりました。

行動のすめ方については、センターからの連絡で明らかとおもいますが、劇団独自の立場、条件にそくして、戯曲の選定、配列、構成などは、オムニバス化によってプロローグ、エピローグつなぎを付加することや、この戯曲集の選定外の作品、および新しい創作劇をふくめることともに自由です。この場合、上演台本装置プラン、楽譜などをぜひ東西のセンターへ一部宛送ってほしいとおもいます。

上演の形体についても、各地域の実情にそって多様に考えられます。上演のピークを四―五月におくことは、全体の情勢との関連で統一的に確認されていますが、早いところでは一―二月から小公演活動にとりかかる劇団もあります。現在わかっている範囲でも、いわゆる定期公演として準備中の劇団、労演とのタイアップでその例会にのる劇団、同じ地域のいくつかの劇団の合同公演をめざしている例、実行委員会をつくってすすめる例、定期公演を別の作品でもつたため小公演活動で行動に参加する劇団等、いろ

いろなケースがありますが、これも地域の要求や条件にあわせて更に多彩なやり方を生んでいくでしょう。この方の報告も、まめにセンターへあげてもらって、行動全体の底あげ―強化をはかっていきたいものです。

「七〇演劇行動」の眼目は、東のセンターのアピールでこぼやし氏がのべたように、日米安保条約でしぼられた体制を終わらせ七〇年代のあたらしい政治状況をきりひろくため、演劇をもって大きい統一行動をおこすこと、全劇団がその行動のなかで独自の課題をはたし、自らの体質をつよめることの二つを、あわせてやりとげるところにありませう。

行動を単に季節的な政治カンパニヤにおわらせることなく、作品・演出・演技・舞台の水準をいっそうたかめ、より広い観客に参透組織し、いきいきした劇団活動のスタイルをうみだし、地域のさまざまな力と連携して民主的文化を一段おしあげる課題を行動をおしてはたしていくなら、それこそが、七〇年代へのなじかな展望をきりひろくことになるでしょう。

そのために、東西リ演の全劇団はまず団内で「七〇演劇行動」の意義と内容を積極的につかみ、センターへの集中をはかる一方地域の劇団、サークル、労演と結びあつて行動をおこしましょう。また、東西リ演のワタをこえて、より多くの劇団、サークルが自主的を要求、条件とあわせて「七〇演劇行動」をおこせるよう、セクトをすてて協力しましょう。

そうした行動の前進にこの戯曲集が役立つことを期待します。

## 署名

### 栗木英章

(でくのぼうの会)

人物 父 自家鉄工所主

娘 嫁いでいる長女

男 地域の活動家

とき 夏の夜

ところ 地方都市のあるところ

舞台 丸椅子、小卓、電話等。

上手が工場に続いていて、下手が出入口。

娘が立ったり座ったり、落着かない様子で電話を待っている感じ。

(できれば、機械の音しばらく)

娘 (上手に) 父ちゃん、お茶が入ってるのよ、一服したら?.....(一人言)ほんとにあの人だったら.....七時には仕事終って車飛ばして.....(時計を見る)もう八時だ。私がお実家へ帰ってるってことくらいさっしが

父 つきそうなのに.....何してるのかしら。  
娘 (顔をふきふき登場) ああ、ネジが切れねえで、眠っくり玉の方がまわっちゃまわあ  
娘 下請けて、忙がしいだけでつまらないのね。

父 おつ、電話がなかったか。  
娘 ありゃしないわ。  
父 請求の電話があるはずなんだが、遅いなあ。

父 電話が鳴る。  
父 きたきた。  
娘 私よ、多分(さえぎって電話を取り)もしも、あなた?.....えっ、田中?ちがいます、ここは山本です。(切る)失礼しちゃ

うわ、間違ひ電話。  
父 いくら亭主と喧嘩したからって、実家の電話にまで八ッ当りするこたあないだろ。  
娘 八ッ当りなんかしてないわ.....ほんとにあの人、気がきかないんだから。

父 ふう。(茶を飲む)  
娘 むこうのお母さんの言うことばかり聞いて、私のことなんかこれっぽっちも.....  
父 冷えたのはうめえ。  
娘 父ちゃん、娘が嫁ぎ先からとび出てきたのよ。少しは話を聞いてちょうだい。

父 わかった、わかった。(伝票を繰りつつ) どうせろくなことじゃないだろ、今度も。  
娘 深刻よノゆうべ、子供の成績が下がったことを、私のせいだってお母さんの前で云うの。腹がたつて腹がたつて、今日、玉ねぎざんであるうちにもう.....  
父 再び電話、今度は父が出る。  
父 はい、山本鉄工所です.....何?ああ、大通りの電気屋.....

男 今晩わ。  
娘 はいノ(見て失望)誰?  
男 夜分どうも(娘を見て固くなり)あの、ベトナム人民支援地域共闘の者ですが.....  
娘 (男の顔をまじまじと見る)  
父 カラテレビ?今月分払ったぞ、払った何だったら受け取り見せたるか(切る)チニッ、こんな時間に月賦台帳のつけ忘れのくせして.....

娘 ああ、わかった。駅前のクリーニング屋さん。

男 ええ、どうも。(父に)おやじさん、今晩わ。

父 うっ？何だ、洗濯物頼んだっか。

男 いえ、今日は別の用で。

父 ふうん。

娘 で、何よ。

男 署名とカンパをさせていただこうと。

娘 署名？へえ、クリーニング屋さんの組合の？

男 そうじゃないんです。(紙袋から資料を出しつつ)知ってるところでないとなかなか(示して)これですが――。

娘 夜までえらいのね、(受け取って見)ベトナム……

男 この写真を見てもらうとわかりませんが、アメリカが、表向きは平和とか何とか言いながら、実際はベトナムへ入、込んで目茶苦茶なことを、(写真の切り抜きを選び)これこれ、こいつはナバーム弾って――。

娘 電話が鳴る。

娘 私出る。(出て)もしもし……はい、そうです。ちょっとお待ち下さい。父さん。父とかわる。

父 はい……毎度どうも、えっ、いや、さっきからやっていると……。

娘 ひどいわねえ、よその国って。

男 ところが日本と深い関係があるんです。

娘 ああ、何かのつてた、ええっと、週刊誌だったかしら。

男 この日本には、日米安保条約によって、アメリカ軍の基地が百五十もあるでしょ。

娘 それに沖縄だって。そこから、アメリカの爆撃機がじゃんじゃん飛んで、ベトナムへ向かってるんです。毎日、毎晩。

父 ——明日の朝まで百本とは、そりゃ苦しいですな。……ええ、夜通しですよ、こりゃ(じりじりして)父さん、早く切つてよ

娘 うちの人がかかってくるかも知れないんだから。

男 この近くだって、例えば……ええ……三妻が、ナイキハークューリスという、核兵器をつくったり、港にアメリカ軍のいかれたヘリコプターを入れ込んだり、それにトヨタ自動車だって――。

娘 ああ、私の主人、トヨタのセールスマンしてるのよ。ベテランなんだから。

男 そうですか、セールスを――。

娘 もう、何百台って売っているわ。この間

もね……。

父 ——じゃ、明日の朝一番で、……はい。それで、勘定の方も一つよろしく(切る)

男 ところが、あの岡崎の矢作川ぞいにトヨタはですね――。

娘 私たちね、あちらよくドライブするの。

男 あそこで、深夜トヨタのジープをこっそり試運転してベトナムへ――。

娘 だって、トヨタって、カローラ、コロナ……それから、とにかくみんな全部一流の車を何百万台とつくってるのよ、欠陥車なんて、アメリカの宣伝よ。

男 だから、その裏にですよ。

娘 裏に？裏に何よ。

男 ええ、それに、このあたり豊和工業の下請けが多いところですが、あそこは小銃を大量につくっています。

娘 くわしいのね、よく本読むねがあつて、お忙しいんでしょう。

男 えっ？

娘 署名用紙をかえして)せっかくだけど私んとこ、何でも主人と話し合いますことに決めているの、ねっ。

男 奥さん、何度も言いますが、ベトナムでは毎日――。

娘 だから、

男 ええ、だから御主人の話しとこれとは……(ふっと)どこかで結びついている。(立ち上がったって仕事場へ行こうとする父に)おやじさん、ベトナムの――。

父 今忙しいんだ。またにしてくれ。

男 でも、今に下請工場だって、軍需産業の片棒かたがされて、ほいまくられて、あけくの果ては――。

父 面倒なこと知らんが、とにかくここ、一、二年結構仕事もらってやってるんだ、つくったネジが、ベトナムだろうと何だろうと、使ってもらえるのが悪いか。わしたちがどうなるってもんでもなし。

娘 電話のダイヤルをまわしかけるがやめる。

男 でも、その仕事が終わるほくたちをベトナム戦争へ加担させることになるんです。

父 たかが、ポルトやナットのことを大げさに。いいか、とにかく仕事があつてあんばいよう食ってけるんだ。ベトナム戦争様々ってもんだら。

男 ……(絶句)

娘 そういえば思い出した。私もこれまでベトナムの救援に協力してきたのよ。

男 えっ？(驚く)

娘 この間も町内会でね、ベトナム救援の何とかって毛布や、カヤ持ってったわ、うちでも出したのよ。

男 (驚き)いえ、それは――。

娘 うちの人も、こういう点じやなかなかなか良心的なの。

男 ちがうんです。それはごまかしなんだ。

娘 ほんとうよ。ごまかしなんかじゃないわ。

男 ええ、ですから、その、日本の政府は町内会まで利用して、物資をアメリカと政府軍の方へ送っているんです。物資をほんとに待っているのはベトナム人民――。

父 (娘に)お前、家へ戻るんだぞ。

娘 だってえ。

父 子供もあるのにお前は……世間体も考えろ小娘じゃあるまいし。(去る)

娘 (後姿に)ひどいわ。(しばらくして機械の音)

男 その、署名なんですがね……そうだ。ぼくたちがどうなるかってことなんです、ベトナムは。

娘 いいわ、(サイフを出して)でも、名前は書かんどいてね、悪いけど(硬貨を出そうとするが、電話が鳴るので急いで出る)

はい……(問)……結構、あなたの世話にならなくなつた……健、何よ今ごろ、だつて満の通知書が悪い……「三」が四つだけよ。それをわざわざお母さんに……えっ？何、もしもし、もしもし。失礼しちゃうわ、受話器を離れて(男と顔が合う)

男 今、考えて、自分の手でベトナム侵略戦争反対という署名をすることが大事なんです。

娘 (男に)ちょっと(指で口をふさぐ)ぐさをしてから電話に)何よ、話の中に……えっ、洋服つくってくれるの、そりゃ本人の体に合わせなきゃ……うん、そういうことなら帰るわ。迎えに来て……うん、運転注意してね。……あつ、満、満、何食べてる……プリン、蜂蜜入れた？……ママすぐ帰るからね。(切つて男に)ねっ、蜂蜜入れなきゃ、だめよな。

男 ……？

――暗転――

――暗転――

――暗転――

――暗転――

――暗転――

――暗転――

――暗転――

――暗転――

――暗転――

# 夜

## 黒沢 参吉

(京浜協同劇団)

—とおい救急自動車のサイレンが、曲折しながら近づいてくる。その音、最高潮にたつし、ブツンと断れたところで舞台あかるくなる。

—綜合病院の、ある階の個室。星が二つ三つ鈍く光る空と、何本かの煙突の望まれる縦長の窓を正面に、二つの壁。

窓を頭部にして一床のベット。

—そのベットの重症患者(人間の必要はない)に、鼻腔カテーテルによる人工呼吸をほどこしている看護婦。

—間。

—婦長が入ってくる。

婦長 どう……？

看護婦 (立つ) およびだして。

婦長 呼吸は？

看護婦 まだ。

婦長 意識も、もどらない？

看護婦 はい。

婦長 (患者の脈搏をみる) ふむ、ふむ……

看護婦 心臓は、しっかりうっています。

婦長 あのまま、変化の徴候なしということか。……あなたのおよびだてで来たんだが

何のご用？

看護婦 伊東さんに、ことづけおねがいをしたんですけれど……

婦長 彼女の話ときたら、問投詞や助動詞ばかり多くて、あなたが何のために私を呼んでるか、肝心なところはさっぱり分らない。あれでよく執行委員がつとまるね。

看護婦 私の話し方が拙かったのかもしれない。

婦長 ふむ。……あなたは、看護婦に必要な冷静さをもっている、そう思っていたんだが……このクランケの担当、替えてくれとい

うんだね。

看護婦 あ、ちがう、ちがうんです……

婦長 そらそら。……どう、ちがうの。

看護婦 私じやありません。おねがひしたのは先生のことです。

婦長 主治医を替える？

看護婦 それは、林先生のままでも……特別に大場先生のご診察がいただきたいんです。

婦長 あなた……ふむ、理由を云ってごらん。

看護婦 おわかりとおもいます、婦長さんに

は。

婦長 いやだな、そういう云い方は。あなたの片棒かつがされるいわれはないんだ。

看護婦 呼吸停止がきつてからもう五時間あまり、毛細管の血行がわるくなつて、手足が冷えはじめています。……この状態で酸素

吸入だけ、ただつづけていても……

婦長 ただ、つづけて……しかし、このクランケ、左側頭部の頭ガイ骨折と脳挫創、レントゲンでは脳内出血もみとめられる。

最悪の症状だからね。

看護婦 でも、その内出血の範囲が比較的小さいし、局部でかたまつてくれる可能性が

ありはしないでしょうか。

婦長 可能性があるかないか、それをきめるのは主治医の領域だね。一般的にみて、林

先生の診断や処置に誤謬はないんだから、

この場合。

看護婦 一般的にあやまりがなければ、それでいいのでしょうか。このまま……かりに

このひとが死んでしまつても。

婦長 ちょっと……あなた、容易ならんこと喋っているのが、自分でわかつてる？

看護婦 わかつてるつもりです。……大場先生には脳外科医として成功された臨床例がたくさんあります。林先生が絶望だと投げ

ておしまひになったこの場合でも、きつとちがった判断と処置がおありだとおもうのです。……このひと、まだ十九です。

婦長 ……十九？

看護婦 いまごろ、電報をにぎりしめて、こ

つちへ来る夜汽車の中でこのひとのお母さん。……出稼ぎに行つたまま行方不明のお

父さんにかわつて、この若さで一家の大黒柱。やつとというところで、こんな……

婦長 きのもも、再生不良性貧血症でひとり

の女の子が死んだ。中学二年十三才。若い

命をあたつておもしろい、人間だもの、も

つなといつたつて無理さ。

看護婦 あの女の子の場合、可哀そうです

けれど、いまの医学ではどうにもならない、

自然な死です。……でも、このひととは、も

しものことがあつたら、それは殺されたことになりま

す。

看護婦 殺され……どうかしてるぞ、あなた。

白衣を着てる以上、感情にはしつたり流されたりは絶対禁もつ。……つきそつて来た

会社の担当課長も説明したろう、起重機のワイヤーが切れて吊つた品物が落ちた、

それがほかの材料をはねて頭にあたるなんて、常識じゃ考えられない全く不慮の事故。

看護婦 そのあと、こう云い足しました。このひとの立つてる位置がよくなかった。……あの人は、ああしか云わない。……私もそう云われました。

婦長 あなたが？

看護婦 破裂したシリンドラーは、今まで四十

キロ圧の水圧に耐えていた。こんな事故が発生する筈がない、全く不慮の災害で、会社に責任はない。……むしろ、破裂するかもしれないシリンドラーにくつついていた本人の不注意が問題。

看護婦 二年前のことです。

婦長 そうだったね。……うっかりしてました。ご主人を事故で亡くしたあなたに、同じ状態の重思をあずけるなんて……

看護婦 そのことで申しあげているんじゃないや

りませぬわ。……ただ、夫をああいり事故で殺されただけに、このひとのお母さんが

今、どんな気もちで汽車に揺られているか

それが痛いほど……

看護婦 よろしい、わかりました。

看護婦 じゃ、大場先生に……

看護婦 いや、このつきそいをすぐ交替させよう。

看護婦 そんなおねがひしてません、私。

看護婦 それは私の判断。

看護婦 冷静におねがひしてらんです。大場先生に電話していただいて……

看護婦 できません、そんなことは。

看護婦 林先生を忌避するわけじゃありませんわ。ただ……

看護婦 実質的には忌避することよ。クランケの身内でもない者に、そんなことが簡単にできるとおもつてるの。

看護婦 大場先生からちゃんと話していただければ、林先生も納得されるんじゃないでしょうか。

看護婦 あなた、此処へ来て一年になる？

看護婦 十月もちょっとですが……

看護婦 たしかに、大場先生が出ていらつしや

れば、林先生は手をひくだろう。しかし、ひかされた林先生は、医長先生の学部の後輩。かわい後輩が、恥かかされたと訴えてくれば、しかもそれが医長の椅子を争った相手となりや……十月やそこらじゃわからないだろうけど、此処にやそういうものもろもあるんだから。

看護婦 前の病院でもありました、そういうことは。

婦長 大場先生、医長問題のトラブルじゃ怒りこりしてらっしゃる。だから無駄だというの、出ちゃ来ない。

看護婦 来てくだらない？

婦長 まして、自分の病院のナースのご指名なんかで……来てくだらない。

看護婦 ……来てくださるとおもいます、私。

婦長 ふむ。……あなたも相当しつこいな。

(椅子をひきよせて腰かける) ……云って

ごらん、大場先生ひっぱりだせるって根拠。

看護婦 この病院につとめはじめて間もなく

です。……交通事故で脳挫創の傷害をうけ

て入院した重傷がありました。原因はちが

いますけど、症状や経過が夫の場合とよく

似ていました。

婦長 その主治医が、大場先生だったんだね。

看護婦 はい。担当看護婦は私ではありません

んでしたけど、ひとごととおもえなかった

ものですから、先生の処置のひとつひとつ

に、何というのか……

婦長 関心をもつてみていたわけだね。

看護婦 そのひとはいま、国立病院でリハビリ

テーションをうけるまでに回復していま

す。……大場先生の処置は、夫が会社の付

属病院でうけたものとは、根本的にちがっ

ていました。

婦長 根本的に……？

看護婦 夫の場合、レントゲンと心電図の所

見だけで、死はもう確定的とされました。

というより、万一生き得たとしても、それ

は……子供の父親としてのどんな責任も負

うことのできない病人の生贖でしかない、

それよりは、このまま……

婦長 そう、云われたわけ？

——沈黙。

看護婦 ……呼吸停止のくる少し前、意識が

もどったとおもえる一瞬がありました。手

を動かし、表情を歪めて、あきらかに何か

云おうとするんです。その手を握って耳の

そばで、がんばるのよ、がんばるのよ……

夫は微かにうなずきました。たしかにあの

数秒間、夫には私の声を通じたんです。

婦長 で、ドクターにはすぐ？

看護婦 意識は、雲の間の太陽のようにすぐ

かげってしまいました。先生は、私の錯覚

だといわれ、そのあと呼吸停止がきました

……それから九十六時間、夫は心臓だけで

生きつづきました。

婦長 九十六時間、ねえ。

看護婦 その四昼夜は、死の部厚い壁と、屍

人であってもいい、生きてほしいというね

がいの板ばさみの中で過ぎました。……私

は、医学の名でくだされた確定的な宣告を

信じないわけにいかない自分の職業を、す

ごく呪いました。

婦長 ふむ。……そのご主人の経過を、大場

先生に話した……

看護婦 はい。……あの交通事故の患者の難

しいオベがやっとなんで、疲れていらし

ったんでしようが、そんな容子もみせない

できて下さいました。……鋼管厚板工場

の加熱炉で、修理の点検中に破裂したシリ

ンダーの水圧を胸にうけ、鉄のタラップを

三段ころげ落ちて、頭をつよくうった夫が

気をうしなつたまま……(言葉をとぎらせ

ベットを凝視する)

婦長 ふむ。……(立ってベットをのぞきこ

む)

——間。

婦長 デスピレーターは、機械的な反覆じゃ

いけない、貸してごらん。(かわって)ク

ランケにかわって酸素をおくりこむんじ

なしに、かれの呼吸器管を刺戟して自主的

な呼吸運動をおこさせるように。一分間二

十四回……すこし少なく、すこし少なく……

看護婦 手の位置がさつきと変わったような、

気のせいか……

婦長 うん、私もそうおもったんだ。

看護婦 婦長さんも？

——間。

婦長 で、ご主人の処置について、大場先生

は？

看護婦 具体的なことについては、当然です

けれど、何も仰云いませんでした。

婦長 だとすると、どういうこと。根本的に

ちがうというのは。

看護婦 こう云われたのです。人間には生き

る権利があるし、医者には患者を生かすた

めの、どんな些細な可能性もさいごまで追

及する義務がある。……それは、あたりま

えのことじゃないでしょうか、そう云いま

した、私。

婦長 ああ。

看護婦 すると先生は、人間の命は地球より

重いと考える者だけが、それをあたりまえ

だと云いきれるだろう、と仰云いました。

……もし大場先生だったら、あの交通事故

のクランケのように、夫を生かしてくださ

いましたか？そんな非常識な質問が喉のこ

このとこまで出かかっていました。……

でも、このひとは、この若さで、会社が

企業主としてあたりまえのことをやらな

ったために殺されようとしているこのひ

には、生きる為のありったけの可能性を追

いかけてもらう権利がある筈です。いくら

貧しくて、身よりがここにいなくても。

婦長 それも、あたりまえのことにちがいない

んだがね。……こんなこと云うと、伊東

さんあたりに、それが日米安保条約の実体

なんてやられそうだが、神経障害、交通事

故、公害、労働災害、患者はうなぎ昇りに

増えるのに、ドクターも看護婦も定員の七

十パーセント。林先生でなくたって、あた

りまえが守りきれなくなる。

看護婦 外来じゃ、患者さんが云ってるそう

です、待合三時間診察三分……

婦長 (笑う) 笑いごとじゃない。……だの

に理事会のおえら方や総婦長ときたら、二

言目にはこの頃の看護婦は態度が乱暴だの

ナイチンゲール精神が稀薄だの。だから云

ってやるんだ、この勤務表でひと月働いて

みなさい、ナイチンゲールでやれるものか

どうか……

看護婦 ええ。

婦長 もちろん、執行部の中の斗争主義、政

治主義は私にはごめんだ。……しかし、看護

婦だって、人間だからね。

看護婦 組合の中でも、それを主張してるん

じゃないでしょうか。看護婦も人間だとい

うこと、いい看護がしたいということ、そ

れを実現するために、政治とかかわること

やたかかうことが……

婦長 わからない訳じゃない、その辺の理屈

……十年前の安保斗争じゃ国会デモにも参

加してアンボハンタイ、キンヲタオセ……

全国の病院に看護婦中心の労働組合がうまれて、秋にはその統一斗争。白衣の天使なんて、気色のわるい呼ばれ方してた看護婦の本当の姿が、すこしでも国民に理解されたのは、あの六十年のたたかいの中でだった。

看護婦 憧れの看護学校へ入ったばかり私は世の中のこと、何も知りませんでした。

婦長 ひとりの女子学生が殺されて、安保条約は自然成立して、岸内閣が池田内閣にかわって、労働者の政党や組織はバラバラに裂かれて、医療のたたかいても火が消えて……そういうことなんだね、結構。

看護婦 そういうこと……。

婦長 安保がおつたら、太陽もささなくなると……そういうあおりようをした人たちの上にも、あおられてキリキリ舞いした私たちの上にも、ちゃんと太陽は照ってるといふこと。

看護婦 私には照っていませんわ、婦長さん二才七ヶ月の私の子供にも……あの人は私の太陽だったんです。私の息子の太陽だったんです。

婦長 ……ふむ。

看護婦 安保条約がなかったら、ベトナムで

の戦争がなかったら、日本がアメリカの基地や軍需工場でなかったら、人の命よりこわれかけたシリンドラーの寿命を重くあつかう、おそろしい合理化がなかったら……私たちの太陽は今も照っていたんです。……そうじゃないでしょうか。

——遠い製鉄工場の上の空が赤くそめられる。

看護婦 あげがた、夫の夢をみるごころがあります。無口なひとでしただけれど、夢の中ではいっそもものを云わない、象みたいに細い目だけが笑っているんです。……作業衣のままかけつけた病院で、四昼夜このデスビレーターをうごかし続けてくれた人たちが真実をおそれて弔詞も読ませない会社の華儀に、泣きながら抗議してくれた人たちが、その多勢の夫のなまにたすけられて、私は会社を告訴しました。……労働者の命を金にしか換算できない会社に、人間の命がどれほど高くつくか、合理化災害がどれほど割に合わないか、この裁判でおもしろくしてやりたい。

婦長 ……。

看護婦 それでも、裁判のたたかいたまらなく重くなるごころがあります。損害賠償というごころなら、それだけなら、応じるから訴訟をひきさげなさいと会社は云ってきます。事実、かりに一番で勝ったとしても会社は控訴するでしょう。高裁から最高裁まで、子供をかかえて、職業をもって、この先何年たたいづづけなければならぬか一方では、賠償金はしさにゴネてる、理解してもらえない人たちの声やら、ときには味方とおもいこんでる人からまで、どつちに転んでも損のないたたかいね……もうやめたい、もうひきさげたいんです。子供とふたり、どこをどうしたって、小さな幸福は守れます。ね、やめていいわね。……夢の中の夫は、ただ笑っています。細い目がこんなふう云うんです。……おばかさんじぶんがきめたことだろう、やめたければきょうにもやめられるじゃないか。じぶんがいのだれが、おまえをしばっているんだい。これがじぶんの、七十年のたたかいなどと、おまえがいの、だれにきめられるかい。わかったか、おばかさん……。

——間。

看護婦 婦長さんノカフの、カフのメーターが……

婦長 ん？ 眼鏡……忘れた、動いてる？

看護婦 はい、動いています。

婦長 (脈をはかりながら) 触診して。

看護婦 (胸をひらいて) たしかです。呼吸……呼吸しています！

婦長 よーし、よーし。

看護婦 (患者をゆすって) 沢田さん……沢田さん！

婦長 揺すつちやいかんノ頭の傷害に動揺が禁もつ位、おぼえとく！

看護婦 はい。……あっ、先生に。

婦長 うん。(出て行きかけ) デスビレーターはね、クランケの呼吸数に……うーん、どうも心もとないな。……あんた、先生およびして、電話でいままでの経過と処置をおつたえして、応急の措置を指示していただく。オペ室の手配が必要か、どうかも。

看護婦 じゃ、あの、大場先生に。

婦長 もし、林先生のこと仰云つたら……どうしても連絡がつかないので、婦長の責任でおねがいましたといいなさい。

看護婦 ……婦長さん。

婦長 さ、早く！

看護婦 はい！(出て行く)  
婦長 (その後へ) 慌ても、大場先生の電話番号……  
看護婦 知っています。

## 上演にあたってのお願い

この戯曲集に掲載された作品をふくめて、「七〇演劇行動」参加作品(現在二六〇)を上演する場合には、作者をまもり運動を発展させるため、つぎのことをぜひ守って下さい。

(1) 上演の内容を当該のセンターへ連絡して下さい。劇団名・所在地・電話番号・代表者氏名・上演の日時・回数・上演作品名・上演会場・上演の形体(自主公演あるいは集会出演ETC)

(2) 上演にあたって「七〇演劇行動」参加のタイトルを付す場合、センターの確認をうけてください。

(3) 上演作品にたいして、一作品一イラスト六〇〇円の上演料をセンターへ支払って下さい。したがって、五作品をオムニバス化して三回上演した場合の上演料は(六〇〇×五×三)九〇〇〇円となります。

婦長 ふむ。……(ベットの傍へよって) がんばるんだぞ、十九才。汽車に揺られてくおつ母さんの、太陽だからな。

——舞台、くらくなる。

(4) オムニバス化した上演台本・装置プラン・楽譜等を東西のセンターへ、一部宛送ってください。これは行動を総括するための資料とします。

(5) オムニバス化するため、作品に改変を加えることに原則として認めあうよう確認しましたが、その場合も必ず作者の諒承を得て下さい。

(6) 本誌掲載の装置デザイン(内山千吉氏作品・名古屋演劇集団所属)を使用の場合は使用料五〇〇円(点数を問わず)をセンターへ支払って下さい。

(7) 東日本のセンターは、岐阜市西野町一劇団はぐるま。西日本のセンターは、大阪府茨木市駅前、一丁目九一―二劇団未来です。

# 片隅から

小島真木  
(劇団 静芸)

ぼつんとテーブルの前に母親。思い出したように、靴のかかとに皮をまきつける作業を続ける。隣の部屋から幼い子供の嬉しそうな笑い声。

——問。

母親、傍にあるおもちゃのねじをまぐぐるぐるなきながらまわる動物のユーモラスな動き(視覚的にはつきりさせるために、変更自由)おもちゃの動きをよるこぶ子供の笑い声、だんだん大きく。間もなく動きをとめるおもちゃ

——問。

後に立つ父親。

父親 おい、何時になったらもってくるんだ

こっちは手をあけて待ってるんだ。

母親 いますぐ……

父親 もう、いい加減にしろ、この忙しい時に。靴工なんて仕事のある時やれるだけやつかないと、食っちゃいかねえんだ。

そうだから？

母親 だから……

父親 だからなんだってんだ、仕事場でやらなきゃ、ハカがいかない仕事を、どうしてもいやだって云うから家でやらせているんじゃないか。靴工のかあさんなら、仕事を手伝うのはあたりまえだ。そんなことでもできない奴は死んじゃえ、死んじゃえ。

母親 ……

父親 俺たちは、辛いからっていつまでも泣いていられる御身分じゃねえんだ。こんなもんしまつとけ。

母親 おもちゃを持つ

放つといて。

母親 おもちゃをとる。

父親 なに？

母親 ……仕事はちゃんとやるから……

——問。

父親 辛いのは、手前だけだと思ふなよ。俺は、毎日あいつの死んだところで仕事してんだ。

母親 ……

父親 俺もこの年になっちゃ、もう他のところへ変るのも、しんどいし……。とにかくこのまんまじゃ、仕事にもなにもならねえんだよ。

母親 判っているから……だから、もう少しだけ……

父親 ——この間、給料のかわりにもらった手形な、もうじきわれるだろ。そうしたら一度、募参りに田舎に帰るか、それまでにお前の靴一足、作ってやるよ。坊主のも、とびきり上等なのを作ってやるつもりだったのにな。あいつ、喜んだっけな、田舎に連れてった時。あのチビが、歩き出したばかりのくせに、どんどん、山へのぼって、抱いてやるっていうのに、いやだつて手をふりはらつて、夢中で歩いたっけな。

母親 だって、仕事してる間は、いつも背中にくりくりつけられているんだもん。——あの時、おろさなかつたら……

父親 馬鹿/やめろ。おまえが悪いんじゃない

いんだから。それだけの寿命さ。あいつ、りこうすぎたよ。

母親 あの時、背中からおろさなかつたら、あの子はいまもここにいたはずなのに。

父親 馬鹿、何度云うんだよ。そんなこと云ってみたところで、もう仕様がないうじやないか。

母親 だって、死なせずに済んだ子を……

父親 さあ、もうやめだ、やめだ。それより早く持ってきてくれ、出来てるだけ持ってくるわ。——子供に死なれた親なんて、みんなそう思ってるさ。そのうち、あいつのかわりが出来れば、少しは、忘れるさ。

母親 あんただけはそんなこと云わないで、あの子のかわりなんて、あるはずないじゃない。それに、あたしら、もう若くないんだよ。一緒になったのも遅かったし、あの子だって、やつとのもで生んだんじゃないか。

父親 だまって去る。

ゆっくり作業にもどる母親。

——問。

下手に靴工場の経営者、この場はきわめて事務的にそっけなく。

経営者 奥さん、労働基準監督署の方が調べに見えたので、あの時のことをもう一度話して下さい。

母親 ……

経営者 辛いでしょうが、おねがいします。

母親 ……十時頃に裕司と一緒に仕事場に行つて、あの子をおんぶして、クツのヒールに皮をまく仕事を手伝いました。毎日四時間ぐらい手伝います。忙しい時はもっとする時もあります。でもおんぶしている裕司がかわいそうなので、なるべく四時間ぐらいにしています。あの日はお昼になったのでみんなのお茶と裕司の好きなラーメンを作つてやろうと思つて、あの子を背中からおろしました。それから台所において、うしろをふりむくと、あの子はヤクルトのビンを口にあてていました。それからものすごい声でうなって、私にとびついてきました。なんにも云えなくて、わたしに、目だけが、お母ちゃんたすけてと云っているようでした。私にだきついて、それから息がでなくなつて、目がつりあがつて——病院につれていった時はもう死んでしまつて居りました。あの子は靴を先らせるくすりをのんで死んでしまいました。

経営者 くすりは光沢液です。九七パーセントのヘキサンが入っています。

監督署の男 ヘキサンは有機溶剤予防規則で第三種有機溶剤に指定されていますね、おとなでも長時間すつてっていると、中毒症状をおこすから、発散源の密閉と換気を完全にすることが規則になっているけれど、それはいかがですか。ヤクルトのビンというところのくらしい量ですか。

経営者 私のところでは一日に45CCぐらいしか使いません。ごらんのように小さいですから。

監督署の男 そのくらしい量では換気などの必要はありませんね。

経営者 私共も爆発することがないように、火には十分気をつけて居りましたが、まさか飲むとは思ひもありませんでした。作業場に赤ちゃんを連れてくるのはとても困るのですが、もう五年もうちの仕事をやってくれているので、奥さんが、保育所に入れてもらえないからといって、赤ちゃんを連れてきてこともわれなかつたのです。今となってみれば一言ことわるべきだったとは思いますが、そのことで責任をとわれても私共としてはちょっと……

監督署の男 保育所へはどうして入れてもらえなかったのですか？

母親 赤ん坊はあづかれないと云われました。それに私ぐらゐの働き方では、内職と同じだから、駄目だそうです。

監督署の男 どうして。

母親 あの人がそう云ったのです。

福祉係の男へスポットあたる。

係の男 (申込書を手) この地区では一年未満の赤ん坊を預る保育所はないんだよ、市でも寄才児保育をしているところはまだ数える程しかないな、入所希望者は一万一千人ぐらゐで、たしか入れたのは三百六十人ぐらゐだったかな、このころは産休あけから預ってくれて嬉しく云ってくるけど、まだ施設や人手の点で、そこまではとても手がまわらないのが現状でね、保育園が必要なのは赤ん坊だけじゃないからね、しかし赤ん坊は、お母さんが育てるべきだと思ふね、なんて云って、一年たたない赤ん坊なんか水子みたいなもんで、抵抗力がないんだから、病気がうつってくるし——それに赤ん坊はお母さんが育てないとカサカサした情緒にかける子供になりやすいさうだよ、なんて云って、お母さんが育てる

のが一番なんだよ、もう一度、よく考えてみるんだね。ま、もう少し大きくなってからでないかと、うけつけることが出来ないでねえ——。

係の男、スポット消える。

母親 裕司がやっとなつて、わたしすくくまた行ったんです。

係の男にスポット。前に立つ母親

母親 あの……子供が誕生すぎたんですが……  
係の男 一年じゃねえ、せめてパンツが一人で上げ下げ出来るくらいでないか——。それにこれだと、あなたは一日四時間ぐらゐ御主人を手伝うだけなんだね、雇われているわけでもないから、つまりは家業と同じだね、これじゃ、入るのはむずかしいなあどうしても一日中外で働いている人の子供を先きにとるからね、それでもすいぶん待ってもらっている状態だから。ほら、これだけまだ待っているんだよ(書類の部厚い東を見せる)しかし四時間ぐらゐの手伝いならなんとかならないかね、やめるわけにはいかないの、稼ぐのもいいけど、子供を犠牲にしちゃ可哀想だよ、なんども云うようにだけど、子供は家庭で育てるのが一番なんだよ、それでもというなら書類だけお

いて下さい。しかし入れるかどうかは判らないよ、こんなに待ってるんだから。仕事にもどる係の男、おじぎして帰える母親。

男のスポット消える。

監督署の男 他には預けるところがなかったの？親とか親戚とか。

母親 みんな遠いんです。田舎にいます。監督署の男 それにしても、やとわれているわけではないとはどういうこと？パートではないんですか？

経営者 それは毎日、ここへきて仕事しているから、うちへ勤めているように思われるんですが、本当は請負いで仕事をしてもらっているんです。靴工はみんなそうです、決してうちだけではありません。出来高払いです。数あげるために奥さんもカカトや底をつけるような簡単な仕事なんかを手伝うわけです。靴はシーズンによって仕事の量に波がありましてね。特に女物の靴は流行が激しいから、確実に売りさばくために、大きなメーカーは見本市を開いて注文をとってから生産するんですよ。だから短期間に間に合せなければならぬんです。靴は機械化するっていったって限度があるし、

ご多分にもれず、人手不足と労賃アップで自分のとこで作るより、私らみたいな下請に出す方が安くあがるから、半分は外へ出すんです。デザインさえもっていけば作るところはいくつでもありますからね。沢山あるんですから、私らみたいな四畳半メーカーって悪口云われるような小さい会社がここだって支園が三畳で仕事場が六畳ですよ。普通の住宅でやれますからねえ。だから大変なんです。間に合わなきゃ、よそに仕事をとられてしまいますからね。けどシーズンをはなれると、ひまな月もあります。だから請負って形が一番いいんですよ。職人さんにとってもいいはずですよ。忙しい時は月十万ぐらゐになることもありまからね。

母親 でもそれは、朝から夜十時頃まで休みなしにやっただけです。

監督署の男 そうすると雇傭関係は、御主人はもちろん奥さんもないんですね。それじゃこんなに機械もあって事故がおこりやすい所なんだから、ありうることだと思ふけど、もし、仕事中にあなたが事故にあったとしても、労働災害にはならないから、労災保険も出ないわけね。まして、子供では

ねえ……。とにかく作業場で子供が一人死んだんだから、私共としてはその責任の所在を明らかにしなければならぬ。会社の責任か、本人の過失かと云っても本人は赤ん坊なんだから、その保護者の責任か、はつきりさせなければならぬわけですよ。経営者 しかし、私共の責任と云われましてもさつき云ったように、いわば、仕事場を借しているようなもので……。私の方も、ついこの間まではもつと大きい作業場もつてやっていたんですが、ま、わたしらみたいな小さいところは、大きいメーカーに頼らざるを得ないので、向うの条件で仕事をこなさなければならぬから、ま、むりがきて、縮小したような事情がありまして。大変な時だし……。とにかく、子供を連れてくるのは困ったことだと思っていたんですが、他に仕様がなければ連れてくるなども云えなかったし——

監督署の男 むずかしいケースだな——。業

そのものは使用規則からいっても、作業場にその程度の量があっても悪いとはいえないし、取扱いにも不備はないし、事前に規制することはできない。そういう危険物のある作業場に赤ちゃんがいることは非常

識な状態だけれど、会社が悪いのか、母親の過失なのか……。とにかく、赤ん坊がいたってことが問題なんだなあ。今のところどちら側の責任か判断できないとしか云えないな。  
母親 わたしが悪いって云って下さい。あの子を連れてきたのはわたしなんです。  
監督署の男 いや、奥さん、不幸な偶然がつかさなっておきることだってあるんですよ。帰ってもう一度検討してみます。今日はこれで。

男 退去。

母親 ちがう、ちがいます。偶然なんかじゃ母親だけがゴツンと残される。

問。

問の中からお話をと見える声。(日蓮宗、いわゆるお題目というもので、うち太鼓等も入る)三人の老婆達。(この場合巫子的なものでなく、信心する普通の年寄りたち。老婆Cは最後までお経をとなえている)

老婆A まさちゃん。——まさちゃん。顔をあげる母親。

老婆 A 仏さんがのり移んなさったよ、早く

母親不安な落着かぬ様子で近づき、少し離れて坐る。お経の声、一きわ激しくなり、中央の老婆B激しく合わせた手をふりたてるようにして、急にパツパツ倒れる。しばらくして身体をゆつくりおこす。

老婆 B クルシイヨ、クルシイヨ。

老婆 A 裕ちゃんかね？そうかね？

老婆 B、子供のようには、こっくりうなづく。

老婆 A (母親に) もっと近くへ——

ためらいを残しながら近づく母親。

老婆 A さあ、なんでもいいから聞いてごらん。

母親 ……裕ちゃん……

老婆 B クルシイヨ、クルシイヨ。

母親 (おずおず手をだして) ……裕ちゃん。

老婆 A え？お水が欲しいのかね？お水を。

仏さんは遠くから来なさるから、のどがかわくんだよ。さ、おみずだよ。

老婆 B、両手でコップをかかえこんでカムようにしてのむ、おさないしぐさじつと見つめる母親。

——間。

母親 裕司。あんた…裕司なんだね？……

老婆 A さあ、仏様はここにそう長くはいられないんだから、早く話しなよ。

母親 裕司、——苦しいかい？

老婆 B タルシイヨ、ノドガヤケルヨ。

母親 かんにんして、裕ちゃん。あの時、おろしさえしなければ……。どうして——。

老婆 B オカアチヤン、オベタイヨ、テツテモ、アンヨモ、オベタイヨ。

母親 (老婆の手を果敢にこする) ——あの時も、裕ちゃんのホッペもテツテも、アンヨもみんな、しんと冷たかったっけ。お母ちゃんの背中まで、水りそうに冷たいっけよ。さつきまで、お母ちゃんの背中で、おろしてくれて、バタバタあばれていた裕ちゃんか、かたくなって、冷たくなって、お母ちゃんがなにを云っても通じないようになっちゃって……。それでもいいからお母ちゃんは裕ちゃんとずっと一緒にいたかったよ。でも、みんなして裕ちゃんを連れて行ってしまった。あ、裕ちゃんがなくなっちゃって思っているから、煙が空にあがって行くのを、お母ちゃんは、ずうつと、ずうつと見ていたんだよ。——ねえ、裕ちゃん、夢でもいいから、お母ちゃんに逢い

に来て。しっかりと覚えていようと思つて、

あんなに裕ちゃんの顔を見ておいたのに、目をつぶっても、もう、はつきり浮んでこないんだよ。そこに裕ちゃんはいるのに、目も口も生きていたときそのままには浮んでこないんだよ。——裕ちゃんをだっことし、いくら肩がはつてもいいから、一日中裕ちゃんをおんぶしてたいよ。

老婆 A まさちゃん、そんなこと云ったら、仏さんの心がのこっちゃって、成仏できないじゃないか、仏さんは長くはいられないんだから、聞きたいことがあつたら早くききなよ。

母親 ……裕ちゃん、一人でさみしくないかい？

老婆 B ウン、ミンナイルカラ。

母親 一人で、ちゃんと、アンヨでできる？

老婆 B ウン。

母親 死んだらもう苦しまないっていうけど今も、まだ苦ししいの？

老婆 B ウン、タルシイヨ。

母親 どうしよう。お母ちゃん、どうしたらいいんだらう。

老婆 A まさちゃん！

母親 裕ちゃん、教えて。裕ちゃんが死んじ

がよいよ。それが親心でもんだよ。——まさちゃん、こういうことはね、誰が悪いというもんじゃない、それだけの寿命なんだよ。寿命というものは、人間誰しも生れるときもらつてくるもんなんだから、どうしようもないんだよ。じゃね、元気だすんだよ。

三人の老婆去る。

ぼつんと、のこる母親。

——間。

おもちやのねじをまわす母親。

ぐるぐるまわる、おもちや。

じつと、見つめる母親。

母親 (おもちやに) 裕ちゃん、やっばり、お母ちゃんが悪いんだねえ。

ぐるぐるまわる、おもちや。

母親 待って、おばちゃん。一つだけ、ねえ裕ちゃん、云ってちょうだい。仏さんになつた裕ちゃんなら判るだろう？監督署の人は他に悪いことは一つもない、裕ちゃんがいたのだけが悪いって云うんだよ。だつたら、お母ちゃんが悪いんじゃないか。連れ

ていったのはお母ちゃんなんだもん。裕ちゃんが死んじやうてから、お母ちゃんが悪かったって、毎日、毎日思ってきたけど——だけど、だけどねえ、お母ちゃんのどっかで、承知できないもんがあるんだよ。そんなこと思うのは、悪いお母ちゃんなの？ねえ、裕ちゃん、お母ちゃんに、本当のこと教えて。やっばり、お母ちゃんが悪かったの？お母ちゃんは自分を恨むしかないの？

老婆 B 答えず、横に倒れる。

老婆 A 御苦労様でした。お帰り下さい。

じつと老婆をさする。

おばちゃん、待って！

もう、だめだよ。

老婆 B、普通の状態にもどり、口よせは終る。

老婆 A ああ、身体中が痛いよ、余程、苦しんで死んだ仏さんらしいね。

老婆 A ねえ、ごころうさんでした。じゃ、まさちゃん。

母親、紙包みを渡す。

おばさん、また呼んでもらえるでしょ？

老婆 A いくども呼ぶと、仏さんが行くところへ行けないで迷ってしまうから、やめた方

——幕——

# 小さな駅のある物語

島源三  
(劇団 はぐるま)

○とき 初秋  
○ところ どこにでもある田舎の小さな駅  
○でるひと

伍長 (構内従事員)

伝さ (〃)

女郎 (〃)

カストロ (〃)

駅長

井田 (助役)

前波 (公安室長)

GI (警備兵)

その他・構内従事員(二・三名)

公安職員(数名)等

増してもよい

ます。中心気圧九三〇ミリバール、中心附近の最大風速、四〇米の強さでまだ衰えていないようであります。尚、かなりの豪雨を伴っておりますので、とくに山間部は注意を要します。」

「台風によります国鉄の被害は各地で出はじめっており、列車の運行は大巾に乱れております。××鉄道管理局の発表によりますと、午後四時二十分頃、×××線、古田川・湯の原間の隧道附近で土砂崩れがあり、只今、上下線とも不通となっております。現場では地元の消防団や近くの建設業者から、ブルドーザなどが出勤、復旧を急いでおりますが、上下線が開通するのは……」

効果で台風情報が単調に入る。

「台風は午後五時現在〇〇県に入り、毎時四〇軒の早さで北北東に進んでおりますので晩方には日本海側に抜けるみ込みであり

構内従事員の伍長、伝さ、カストロ、駅長と口論している。やや離れて公安室長の前波が背をむけて座っている。その前波を気にしながら、駅長は日常の従事員との馴合いを利用し、説得工作をしているが、うまくいかない。その、イラダチと背を向けている前波が、実に対照的である。

伝さ わしやあなも、鉄道に入ってから二十四年

になる、そりやあな今までにやって、これに、よう似たことはなんべんもあつたんなら、よやくな伝さ、やつてもらわんことにな、しやうがねえじゃねえか。

伝さ (じれったく) わからんやな、あんな。

駅長 わからんのは、おめんたじゃねえか、

(小声で) わしの立場も考えてくれよ、(カストロ何か言いたい) まあ聞け、わしらじやつてなあ、上司からの命令であれば……とにかく、……これも仕事なんじやで、な。あの、アメリカさんにしろ、そうだ。ましてや公安職員の……

カストロ ほんでやなも、仕事の邪魔しずにおいでくれりやあ、いいんですよ。(銃を

駅長 ……

カストロ だってえあの、見たこともねえ新型の冷凍車、アメリカ兵や公安室長さんまでが、警備に付いてこんならん様な大事なもんって、何やな。ベトナム帰りの死体でも入つとらんかな。

前波 (ふりむいて) そんなことは君たちに関係ない。あの列車を構内郡線に移せばいいんだ、……トンネルさえ開通すれば、すぐ、ここから出ていく。……まあ、これも、お互いに仕事なんだから。

女郎、とびこんでくる。

女郎 (周囲を気にし) 伍長さ、機関士が、

やるんか、やらんのかって、

前波 やるよ。ね。

伍長 ……じゃ駅長。そういうことやで、わしらも、やるだけのこと、やってみるけど、あとのこたあ、頼んだんな、いこ。(全員去る)

外から小さく、マイクの声。

「湯の原方面、もう、ごさいませんかパスが発車いたしますよ」

駅長 申し訳ございません、あの連中ときたら……

前波 駅長さん。あの冷凍車にだけは、

駅長 はあ、？……

前波 いや、……(言葉をにごす)

電話入る。駅長がかかる。

駅長 はい、古田川駅長の。清水君か、どうなってるんだ一体、連絡がないんで現場のことが、さっぱりじゃないか。もういい、で、向うから応援がきた、うん、なに、まだ二時間かかる、なに暢気なこと言つとるんだ、それじゃあ前の連絡と何も変つたらんじやないか、そんなことわかってる。いいか、もう上下線が二時間もストップしてるんだぞ、局からは、やいのやいのと電話がかかってくるし、なに？ なのために君がわしの代りで、そっちへ行ってるんだ。わしは今、こっちで手がいっぱい、あと一時間、一時間で開通させるんだ、それ以上は絶対に許さん。いいな、連絡はかならずつづける。」(切る)

前波 まだそんなに、

駅長 申し訳ありません、まったく保線区長

かまえる真似をして) あんなブッソウなもん持って、金魚のウンコじゃあるめえし、俺んたの尻に、ベタベタついて歩かずに。

駅長 伏見君。

カストロ なんやな、本当のこっちやがな、なあ伍長さ。

伍長 とにかくねえ駅長さん。言葉が全然、通じないんですよ、よけいに恐いんですよ。

今だって、早よやれ早よやれって、俺んたの尻を、ぼいたくするけど、こっちやって、この雨と風の中で、作業するのに命がけやそれやに、「バカヤロー」「バカヤロー」と、どなり散して、あのアメ公ときたら、バカヤローだけは知ってけつかるんですよ。

伝さ それに、あの公安のガキ共、昨日や今日、鉄道へ入った様な若僧のくせしやがって、このわしにだ、ああしろ、こうしろ、いちいち、入換にさしずしやがる、フザケルんじやねえや、まあ、どっちにしても、あの野郎んたらを、ここから、おっほり出えてもらいてえなも。

駅長 伝さ。(小声で) あとでまた、一升もつてく。

伍長 (はつきりとはねつける) 駅長。こりやあ、いつもとは訳が違うんやんな。

もついでいながら。

入換の音、再び別の電話が入る。  
駅長かかる。

駅長 「はい、わしだ、……駅長だ。局？」

こりゃあ失礼いたしました。はい、私、古田川駅長の、そりです、はい只今、現場から連絡がありまして、湯の原保線区から応援を受けました。はい、エエ、事故現場へは、ここから一軒ほど先ですので、いや、そんなに、もう一時間、いや、一時間半みていただければ、はい、はい、地元の建設業者のブルドーザから、消防団まで、はい、はい、

GI、片手にワイスキー、片手に銃を持ち、大声でわめきながら入ってくる前波が弁解している。

駅長 はい、エエ？ もしもし、（前波に）

前波さん、ちょっと静かにしてただけませんか、局長、じきじきなんです。（前波GIをうながし外へつれ去る）どうも、いえ、なんでもありません。そうです公安室

長の前波さんが、エエ、その点は大丈夫です。職員の大半は事故現場へ行っておりますし、残留職員は、助役の井田が乗客の整理にあたり、あとの者で、貨車を構内郡線に移動させる作業をしております、エエ？

ええ、それが、シートをかぶせた車から、ぶっそうなのぞいでおりましたし、待合室にも多少の乗客が、それで、あのままホームに置いてくのも、なにかと、まづいと思いましたが、ええそうです、私の判断で、はい、ありがとうございます。

はい、そのことは、絶対に外にもれる心配はございません、（助役の井田、入ってくる。駅長、気づかない）はい、とにかく事故現場を復旧し、一刻も早く、あの列車を通過させますと、はい、その点でしたら、御安心ください。なにしろ公安職員の方、二十名ちかくがつきつきりですので、貨車の中には絶対に入れません、はい、わかりました。（電話を切り側の井田に気づく）井田君、なにをしてくるんだ。まさか君、……いつからここに、いや、いい、客はどうなったんだ、客は。

井田 はい、待合室の客は、バス、タクシーで双方の駅まで、列車の乗客にはまだ、そ

のまま列車の中で待機してもらっています

駅長 それで、

井田 いや大丈夫です。場外に停めてありますから、それに車掌をつうじて、落石事故により、トンネルがふさがり、一時不通の理由で、あとはなにも言っておりません。駅長 そうか、しかし、いつまでも、ほっとけんだろう。

井田 はあ、車掌も乗客に、だいぶ、てこずっている様子です。ねえ駅長さん、こんなことして、

駅長 と言って、今、ここへ入れる訳には、……うん……やむをえん、もう少し様子を待とう、あと一時間、一時間もすれば復旧し、やっかいなあの列車は通過する。通過さえしてしまえば、あとは事故だけだ、誰れが来ようと何とでも言える。こういう御時世だ、まして、土砂崩れとありゃあ、そのうち新聞記者もかけつけてくる。（井田もの想いにふけて）井田君。どうかしたんか、……貨車の入換、君が指示してくれんか、私は現場からの報告電話を待つから。

井田 ……はア。

駅長 さあ。

井田 駅長さん、私、心配なんです、あの列車には火薬類のほかに、駅長、あのタンク車、J.P.4新宿駅構内で爆発した例の、

駅長 バカなこと言うんじゃない。  
井田 駅長さん、構内の者は知ってるんですジェット機の燃料で、

駅長 違う。ガソリンだ。  
井田 ガソリンならタンクの横に、あんな印

はしてないって皆が言うんです。  
駅長 だとしたら一体、どうだと言うんだ、

……いいかね井田君。君は、いやしくも当駅の管理者だ、その君までが、ウロウロになつては困るじゃないか。

井田 構内の者が心配してることを、わかるんです、……わたしがいけないんです。皆して私を責めるんです、……

駅長 何いうんだ君は、……どうしたというんだ。構内の者に、何をふきこまれたかしらんが、そんな気の弱いことでどうする。

井田 もし、  
駅長 もし、？……もしなんだ。

井田 ……いえ、この台風の中で、うまくゆくかどうか、  
駅長 だから、君が直接、指示してくれたいうんだ。……井田君、君、この頃ちょっと

疲れてるんじゃないか。

井田 いえ、心配なだけなんです。  
駅長 ガソリンだろうが、火薬だろうが、たかが危険品貨車の取扱いぐらいいで、……たまたま荷主がアメリカ車だ、っていうことだけじゃないか、いいから貨車のところへ行きたまえ。

井田 ……は、はい。（去る）  
駅長 （井田の態度にわり切れない様子）どうかしらるぞ。

電話はいる。駅長かかる。

駅長 「はい、駅長ですが、エエ？ 支社、支社長さんでいらっしやいますか、（思いもしていない相手に動転し声が出ない）前波さん、は、はい。おみえになっておいでです。ちょっと、お待ち下さい。（表の前波を呼ぶ、前波、入ってくる）支社長さんからです。

前波 支社長？（電話をとる）前波ですが、いえ、先日はどうも、（笑い）あれは掘出しもんですよ、ええ、うらやましいですなほんと、え、エエ、大丈夫です。もうまもなくです、すべて順調に……ええ、知って

いるのは、私と駅長だけ、例のは、……（側の駅長を気にして）勿論、助役なんかにも言っておりません、大丈夫です。あと三十分、三十分もあれば、え、そうです……

GI、わめきながら入ってくる。  
前波、なにか言っていて追いやる。

前波 ……どうも。いや警備兵が、ええ、そうなんですよ、問題はむしろ、警備兵です。こんな田舎駅だから良かった様なんですよ、もし、これがです、都会の大駅だったなら、高校出の一人や二人、英語のわかる者も、……エエ？ 大丈夫ですよ。機密が洩れるとすりゃあ、あのアメリカ兵ですよ、今回も、あちらの兵隊三人と私のつてきたんですが、一人は黒ん坊です、ええ、酒のんで、ひっくりかえってるんです、一人、いさましいのがあるんですが、これがよく喋るんで、今も仕事にたるんでるって。ええ、しかし、あちらさんも、これだけ我々に警戒を要してきて、あんな連中を警備につかうとは、……ええ？ 公安職員ですか、二十人ほど応援が来てくれました、そうです、入換を監視します。ええ

まあ、私におまかせを、ええ、一度、お宅の方へおしかけて、エエ？ いや、なるほど、そちらの方がいいですか。(笑い) はい、はい。」(切る)

駅長 前波さん、あの、支社長は？

前波 いや、心配無用。貴方のことじゃない、だいたい貴方の落度は今のところ、なにか一つない、むしろ、その適確な判断で、ここまで来たんだ、新聞社はトンネルの土砂崩れに気をとられている。その間に貨車をホームから構内都線にいったん隠す、まさにベトコン作戦だ。(笑い) この名案は貴方の意見だ、立派、お見事です、おかげで私も無事、あの列車を送りとどけられるああ、支社長に言い忘れたが、貴方のことは、帰ったら報告するよ。

駅長 はア、ありがとうございます。……あの、……

前波 ?

駅長 いえ、(無理に微笑をつくり)こんなこと、どうでもいいことなんです、……その、……組合が、……どうこの問題を、

前波 組合? ……(笑い)我々はね、お上の指示で動く、例え、それがアメリカの軍需品であろうと、今度の様な、いや、例え

それがなんであろうとですよ、我々には運ぶ使命と義務がある。

駅長 そうです、義務があるんです、ただ、

前波 最近、組合や革新政党が、軍需輸送は反対だ、などと騒いでいるが、現在の日本の立場を考えれば、そんな、トコクサイことを言う方が馬鹿ですよ、しよせん、どうなるものでもないのに。

駅長 そうですか。(また不安がつのるがそれを押し隠そうと努力している)

前波 駅長さん、私たちはね、それ以上のことは考える必要はない、あとのことは、政府なり国鉄当局が考えてくれるんだから、それよりなにより、あの臨貨が、アメリカ軍の軍需輸送であることは、誰れにも言っていない。

駅長 それが、構内の連中は、うすうす、前波 噂はこの際、問題外だ。まさか、シートをめぐって中を見るときか、貨車の扉まで開けて中へ入るなんてこと、ないでしょう?

駅長 それは、

前波 あたりまえですよ、そんなことすれば刑特法が発令されますからな。

駅長 はア?

ですが、

前波 そういう男は、管理能力はないね、いや、私は専門外だ。しかし、私が人事面を担当するなら、貴方以外に、当駅に人なしと報告するね。局の人事課の課長は、

駅長 はい、大山さんで。

前波 あアそう、大山さんだったね、彼とは運輸高等科時代の同期でしたよ。

入換の音と一緒にG-1の声。

「What are you doing there, jap./ Why you off the Waggon?」

(何するんだ貴様、なぜ切り離すんだ)伝さの声。「殿りゃがったなこの毛唐」

駅長 いかん。(前波ととび出す)どうしたんだ。

G-1、大声でわめている。「伝さ大丈夫か」「伍長よんでこい」「助役さんこりゃあ、あんまりやがな」等々、騒音に混り公安職員と問答している大勢の声。

室の中、電話がなっているのみ。

前波 刑事特別法。つまりです、日米安保条約、第三条に基づき、行政協定です。日本政府とアメリカ軍との間に約束されている

法律の様なものですがね、特にですね、米軍の機密の保護、アメリカ軍の機密を他人に知らせるとか、故意に知らうとしたら、十年以下の懲役、要するに、スパイ行為ですな。

駅長 スパイ。と、とんでもない。

前波 (笑いながら)そうです、そんな、とんでもないこと、我々だってしてもらいたくないですよ。同じ釜のめしを食べてる国鉄職員としてね、この駅は小さいが、かなり組合もガツチリしていると聞いています。であれば、それぐらいのことは皆、心得てますよ。

駅長 土砂崩壊さえなければ、あの列車はただ、ここを通過していただけだったが、

前波 そうですか、私もこんな心配する必要なかった、しかし、あと数十分の問題にすぎないんですから。

電話入る。駅長でる。

駅長 「え、えっ? ××新聞」(前波すば

駅長の声 「とにかく静かにしたまえ、いっ

たい、どうしたんだ、井田君」

伝さの声 「どうもこうもあるかな、危険品の火薬車が三両も一連になると、介在車いれようと思って、他所の線へ切り離れたら、訳のわからんこと言いくさって、」(駅長の肩をかりて入ってくる)……ああ痛て、尻を鉄砲でどつきゃがった。

G-1声 「Who give you order that? I'm the commander at this, you see?」

(誰れの命令で勝手な真似するんだ、)G-1の指揮官は俺なんだぞ。

前波の声 「I understand, Sergeant, but now I talk you that the state railways have many rules, so he……」

(だから今、お話しした様に、国鉄にはいろいろな規程があつて、彼は……)G-1声 「Be silent, we have nothing to do such a rule. Do as I say. That's right. Hey you, go on your work,」

(そんなこと我々には関係ない。お前達はただ、言われた通りにやればいいんだ。仕事を一つづける、貴様ら、固って何を話している。さっさと仕事にかかるとだ。)

駅長 とにかく伝さ。

やく受話器をとる)

前波 「誠に申し訳ありません、当駅は今、乗客の整理で手いっぱいなんです、事故現場に仮設電話をひき、それは各新聞社へ通知済みです。そちらへかけて下さい。ええ、乗客の生命が第一です。」(切る)

駅長 申し訳ありません、私、とにかく、動転してまして。

前波 その後、現場からの連絡は、

駅長 いえ、まだ。

前波 ……それにしても、あの助役の井田と

いうのは、よくありませんな。

駅長 井田がなにか?

前波 いや、ただ、彼、身体の具合が、よくないんじゃないですか。なんか管理者としての落ちつき、判断力がない。

駅長 は、はア……最近、この線に、あの臨時列車が入る様になってから、なんか急に……それが、その日になって急に局から連絡がありますんで、井田君は、そのたびに神経つかってまして。ま、御存じの様にこの駅は近くの鉾山からの車の出し入れもあり、一木、臨貨が入ると大変なんです。責任感は一借つよいのですが、どちらかというて気の弱い、酒も飲まん、かたい男

伝さ わしゃあなも、あんな毛唐に殴られる筋あいはねえんじやい、……ああ痛て。

外、一だんと騒がしくなる。伍長と井田、口論となる。

伍長の声 「あんたでは話しにならない」

井田の声 「乱暴なことはやめたまえ」

伍長の声 「銃で殴る方が、よっぽど乱暴じや。とにかく駅長に話しがある、どいてくんなせえ。」

G I、入口で伍長に銃をつきつける。

G I 「Get out!」(出る)

伍長……駅長。こりゃあ一体、どういうことぢやな。

駅長……前波さん。

伍長 駅長。おっちゃんたわなも、こんな奴らの奴隷でも使用人でもねえんやんな、なんやな、この真似は。

G I 「Are you going to sabotage?」

(お前達はサボル気か?)

伍長 やかましいやい。俺んたにはな、そんな、チンパンカンパンな言葉、わからへん

のじやわい。

井田 伍長さ。

伍長 あんたこそ側におつてなんじやな、ほんで作業にかかる前にも言ったやろな、妙な問題がおきると、わしんたやつて、いややで、構内へ公安やこいつんたを入れずにおいてくれるて。

前波 まあア、林君だったね。とにかく駅長さんや助役さんを、そう一方的に責めるのは、

伍長 何が一方的です。貴方たちの方がよっぽど一方的ぢやないですか。

前波 ナア君。そう興奮しちゃうかんよ。いいかね、駅長さんだつて、私たちだつても好きこのんで、

少し前より外で公安職員ともめていた構内従業員、なだれ込む様に入ってくる。G I、皆に銃を向ける。

G I 「Never com e in, Get out!」

(入ってくるな)

前波 とにかく、そのことはあとでだ、な、こんな所を外部の者にでも見られたら、お

互にまずいから。

伍長 まずいのは、あんたがたでしょう。

G I (前波に) 「Do you understand the military Command, My?」  
(貴方たちは、軍の命令を何だと思ってるんだ。)

前波 (G Iに) 「I see, I see, I make them do the work all at once, so please don't roar at us in a loud voice, Mr. sergeant!」

(仕事はやらせますから、あまり大声でどならないで下さい。)(G Iを宥め外へ去る。)

駅長 あア室長さん、前波さん。

前波 (顔を出し) 貨車をあのままでは、まずいですからね。(去る)

駅長 は、はい。

井田 (皆に) さあ君たち。頼む、頼むから作業に戻ってくれ。(反応なし) 女郎さ、駅長 (頭を下げ) この通りじや、な、頼むつづけてくれ。

井田 梶浦、伏見君。……どうしたんだ、なんとか返事ぐらいたらどうなんだ。……業務命令だぞ、やるんだ。

従事員、井田を睨みつける。  
間。

伝さ こんなことされても業務命令だつて、

言うんかな。

井田 ………

カストロ 業務命令だつて言つてる助役さんたちはいいですよ、だが、どづかれて作業するのは俺んたやでなも。

間。

井田 そうか、……君たちは、君たちは職場放棄をするつもりだな、よしわかった。私一人でもやってみせる。(去る)

カストロ フンノなが一人で出来るい。

駅長 ナア、わしもやるから。

女郎 鉄砲なんかつきつけて、やれやれ言われたつて、恐くて、

カストロ (銃の発砲を口まねする)

駅長 おまえは……冗談にもそんなこと。

カストロ 冗談ぢやないですよ、しないって保証がどこにあるな、奴らはなも現にベトナムで人を殺してるんやんな。

伝さ 俺たちをベトナムと間違えてやがる。

伍長 ま、さっきも言った様に、こんなことになったのは、全部、貴方の責任ですよ、

わしらは、はっきり貴方に言ったんだから  
駅長 伍長さ、そんなこと言つてる場合ぢやないだろ、もし、万が一にも、これが新聞社あたりに、

伍長 バレたら恐いんかな、と言うことは、  
駅長さんでも、こういう物を国鉄が運んどののは、悪いこつちやと知つとりんさるんやなも、(駅長なにか言いたい様子) おつと、おれたちが、あの列車を、なんである

かも知らずに作業しとつたとも思つとりんさつたんかな、とんでもない、そんなことあ、わしら百も承知ですよ。

駅長 それを知つて君たちは、……そうかそれで作業を、

伍長 (強く) そんなこつちやねえ、……そりやあわしらじやつて、できるもんなら、あんな殺しの道具、運びたかねえ、アメリカさんの戦争の手伝いなんぞ、まっぴらさ。

だがね、そんなこと駅長におこつてみたとしてどうなるものでもないでしょう。業務命令つてやつには、わしら弱い、やらんとは

言わんですよ。だから、公安や、あの、ド気違いのヤン坊を、構内に入れずにおい

てほしい、つてことです、これ以上めんどうなことが起きんためにもね。

駅長 ………しかし、わしの一存では、

伍長 あんたは現場長でしよう、それぐれえの権限はねえんかな。

伝さ 毛唐に殴られたり、公安に監視されたり、これじやあまるで、おれたちは罪人あつかいやがな。

駅長 いや、そんな風にとられたら困るよ、あの貨車は、局からの、いや、本社からの特別な命令で、米軍の……

伝さ 米軍じゃろが、どこじやろが、わしやあ、規程どうりやつたまでじや。危険品貨車が一連でこや、介在車を入れる、そんなことあ、駅長が一番よく知つとりんさるやねえかな、それをやつて、わしやあ、どづかれたんや。

駅長 ありやあ酔つてたんだ。それに、国鉄の規程など、

伍長 だつたら、なおさらやがな、そんな奴に俺んたを監視させるなんて、駅長さん、

あんたは一体、局の命令が大事なんか、俺んたの生命が大切なんか、どつちが大事なんやな。

駅長 ………

入換機うごきます。  
風雨の音、はげしい。

カストロ 伍長さ、本当にやりだしたぞ。

女郎 本当や、公安がダ・ルマ返しとる、あア  
あ、あんなヘッピリ腰で。

駅長 な、頼む、頼むよみんな、……わたした  
ちは今まで、親兄弟の様にやってきた仲や  
ねえか、わしやって、いつでも、おまえた  
ちには目をかけてきた。それやに、それや  
に、なんで今日ばっか、……いつものおめ  
えたちは、どこへいっちゃったんや。

伍長 駅長。それとこれとは問題がちがう。

前波 ……わしの顔もたててくれ、わしは今  
年で停年なんじゃ、国鉄最後の御奉公の年  
なんじゃ、頼む、頼むでこの仕事だけは。

伍長 わしらはなも、職場放棄をするつもり  
はねえと言ってるやねえかな、だから、

女郎、こっそりと外へ出ようとする。

伍長 女郎。  
女郎 ……かわいそうやげ、一人で、

電話入る。カストロでる。

カストロ 「はい、古田川駅、はア？ 熊谷  
駅長 (あわててカストロから電話をとる)  
あア、駅長の野村でございます。は、はい  
(周囲を気にしながら小声で) はい、異状  
ございません、いずれも順調に、

伍長 駅長。局やろな、(側へかけより、受  
話器を取ろうとする、駅長は取られまいと  
必死)

前波 伍長さ、頼む、頼むから、わしの顔を  
たててくれ、局長さんなんじゃ。

前波、入って来て伍長にとびかかる。

前波 (伍長に) なにをする、こら、やめん  
か、暴力はやめろ。

伍長 (三人がからみ合う) どうして貴方は  
本当のことが言えんのやな、貴方が言えな  
きゃあ、わしが話す。

前波 林。公務執行妨害で逮捕するぞ。

伍長 逮捕？

前波 前波さん、待って下さい、ちがうんで  
す、待って下さい。

外で貨車の激突音。

伍長 やった。  
駅長 ……………

外で公安職員の声「室長さん、来てく  
ださい」「大変です」風雨に混って人  
の騒ぐ声。

伝さを残し、全員、外へ去る。

伝さ 言わんこっちゃねえ、ト・オ・シロが変な  
真似しやがって。

外は蜂の巣をつついた様な騒ぎ。

前波の声 「注意しろ、タンク車からガソリ  
ンが洩れとる。火には注意しろ、火を使っ  
てはいかんぞ」

駅長の声 「落ちつくんだ、落ちつくんだ、  
いいか、落ちついて、わしの言う通りにや  
るんだ。タンク車を火薬の積んである危険  
品貨車から切り離し、なるべく遠くへ別々  
に解放するんだ。いいか、危険品貨車には  
火薬が積んである、あわてるな、これは事  
故ではない、事故ではないぞ、単なる貨車  
と貨車との激突だ、あわてると本当に事故

になる。」

入換機、動きだす。騒ぎは一段と大き  
くなる。

ずぶ濡れになったカストロ、とび込ん  
でくる。

カストロ 伝さ、消化器どこや。

伝さ なにを？ 火が出たんか？

カストロ まだや。

伝さ (ホットして) このドアホめが……火  
が出たらな、駅どころか、台風ごと、ふっ  
飛ばされちゃうわい。

外で数人のG I、わめく声。

カストロ くそつたれノまた、こやがった。  
(去る)

自由に動けない伝さ、一人いらいらし  
ているのみ。

井田、息をきらしてとび込んでくる。  
が、その目つき、しぐさは普段の井田  
ではない。まさに気がふれた狂人と化  
している。

伝さ ……………

井田 (伝さの方を見なおし) 駅長さん、冷  
凍車の中で、アメリカの兵隊が大勢寒そう  
にふるえております、私に、さむい、さむ  
い、言うんです。(敬礼して)

外で入換の音、騒がしい人の声。  
クロスして台風情報が単調に入る。  
台風は只今、〇〇県に入り、毎時四〇軒の

早さで、北北東に進んでおります。中心気  
圧、九三〇ミリバール。最大風速四〇米の  
強さで、勢力はいぜん衰えていないよう  
であります。尚、かなりの豪雨を伴って  
おりますので、とくに、山間部は注意を要し  
ます。

幕

# オキナワ

## こばやし・ひろし

(劇団はぐるま)

ゆり部隊終えんの地、ひめゆりの塔に御案内申し上げます。足下にお気をつけ下さいませ。(少し位置をかえ)みなさま、おそろいでございますか。では、最初にみなさまと共に御参拝したいと思います。

バスガイドは舞台上より客席を後に正面に向って黙とうする。みすほらしい花売りが舞台の観光客に花を売りつける。

花売り ひめゆりの塔にお花はいかがですか。五十セントです。お花はいかがですか。ガイド ありがとうございます。では御説明させていただきます。みなさまの前にあります大きな井戸のような洞窟が、ひめゆりの乙女たちが最期を告げた鐘乳洞でございます。県立師範学校女子部と第一高等女学校の生徒職員二五名で結成されました。昭和二〇年三月二三日、すでに陸軍と化した那覇をあとに南風原野戦病院に向ったのでございます。艦砲射撃は日に日に苛烈をきわめ、五月に入るや、ぞくぞく運ばれてくる負傷兵で病院は混乱状態に陥りました。そしてついに移動命令が下ったのでございます。泣きわめき、必死にすがる重傷兵を心で、拝み手を合せ、弾丸のとびかう中を壕から壕へ、南へ南へと希望のない逃走を続けました。そして、この米須(

舞台前面、客席にバス・ガイド

ガイド 本日は沖縄観光ミドリバスを御利用下さいましてありがとうございます。ようこそお越し下さいました。沖縄も、いよいよ七二年より本土のみなさま方のお仲間に入れていただくことになりました。よろしくお願いいたします。沖縄は現在では、本土からのお客さまを始め、韓国、台湾、香港のお客さまなど、年間約十五万のお客さまに沖縄を訪れていただいております。基地収入につぐ、第二の産業になっているのでございます。

いつ、おつきになりました。あつ、さようでございますか。ゆっくり御滞在いただきたいと思っております。

この珊瑚の島沖縄も、今は何事もなかったように、美しい七色の海、青い山野に包まれています。今から二五年前、一九四五年、昭和二〇年四月一日、アメリカ軍の上陸を許し、九〇日間にわたる凄惨な死闘が

くり拡げられたのでございます。潮のよう押しよせるアメリカ陸海空軍四十数万、受けて立つ日本軍は十五才以上の中学生師範学校の生徒を含め十万人。この小さな島を十重二重に取囲み、海からの艦砲射撃、空からの爆撃銃撃、戦車、装甲車、圧倒的な火力に叩きふせられ、草もなく、木もなくただ葉々とカバネを積上げていたのでございます。沖縄といえはガジュマルで有名ですが、見ていただい、おわかりのように、この熱帯性の大木は今はどこにもみることができません。すべて根元から吹きとばされてしまったのでございます。身をかすところとてなく、洞窟にひそみ、死地を求めて出撃し、また火焰放射器の炎にめられ、国の行末を信じ、尊い御楠となった勇士九万四千柱、また、子を求め、親を求めて散りはてた沖縄県民は十五万をこしたのでございます。どうやら、ひめゆりの塔にまいりました。只今から、涙なくして語れない、ひめ

りの塔にお花はいかがですか。

それまで全く見向きもしたかった観光客も、数人これを買う。

ガイド ここを訪れて泣かぬ人はありません。一昨日は文部大臣が御参拝になり、昨日は木村信玉県知事、竹田参議院議員が御参拝になっておられます。沖縄を訪れてひめゆりを訪れぬものなく、各界の名士の献花の絶えぬ時はありません。

ガイド消え、ジェット爆音、舞台の片隅に花売り。

花売り お花、お花はいかがですか。ひめゆりの塔にお花はいかがですか。お花、お花はいかがですか。沖縄のお土産に貝の首かざりはいかがですか。

ガイドA、B。完全武装で舞台の左右に立つ。

ガイドA 私は沖縄のSP、スヘンシャル・ボリス一等兵です。

ガイドB 私は沖縄のSP、スヘンシャル・ボリス軍曹です。

ガイドA 私たちは沖縄基地の秩序維持の任

務についています。

ガイドB 観光客がくる。デモがくる。私たちは、ただそれを立ってみているだけです。昨日立っていたように、今日も立っている。明日も立っているでしょう。

爆音、エンチン調整音が度々入る。その時は声が大きくなる。これからは二人の舞台での行動は自由。

ガイドB おーい。また観光客だぞ。こんな調子じゃ、ひめゆりの塔のお株を奪うんじゃないか。

ガイドA ひめゆりは女性向き、カデナは男性向きですか。B52が観光資源になるなんて思ってもみませんでしたねえ。

ガイドB だが、峠はこしたなあ。

ガイドA こした？

ガイドB 交流団がこなくなったから、復讐も計算通りすすみ、総選挙も終った。本土

政府は七〇年々々才だ。

ガイドA となると、沖縄、沖縄ってさわがなくなるということですか。

ガイドB だろうなあ。観光客が写真をとっている。舞台に必ずしも出なくていい。

こめす)の天然洞窟にたどりついたのでございます。深い洞窟の中では水を汲みに行くことも水を飲むこともできず、葉とてなく、ただ、傷口のうじを払いのけてあげるものが治療のすべでした。

六月十八日、もはや、これまでとひめゆり部隊に解散命令が下ったのです。しかし雨あられの弾雨の下、アメリカ兵の包囲の中、解散するといつてどこへ行けるのでしよう。泣き崩れる者、たどおし熱る者、最後の乾パンが三枚づつ配られました。長い沈黙のち、みんながそれぞれお別れの歌をうたい始めたのです。東風平(こちひら)先生が「海ゆかば」をうたわれました。(ガイドうたう。)それは音楽教室と何ら変わりません。ただ、異様に洞窟の中にひびきわたただけでした。その瞬間、一発の手榴弾が炸裂したのです。続いて二発、三発。「せんせいノ」「お母さんノ」……轟音は悲鳴と共に消えました。時に六月二〇日、ひめゆり部隊の声は永遠に消えたのです。

いわまくら

かたくもあらむ

やすらかに

ねむれとぞいのる

まなびしともは

花売り お花、お花はいかがですか。ひめゆ

ガイドA チェック、写真をとりやがる、撮影禁止の札がわからんのか。  
ガイドB (笑いながら) お前も変わったよ。前ならどなりつけていた筈だ。  
ガイドA いやですよ。ポンドンの近衛兵とちがいますからねえ。アメリカ帝国主義の手先ガイドAなんて。

老婆入ってくる。

ガイドA 婆さん、パス。

老婆 いつも通るがね。

ガイドA だが、パス見せにゃいかんよ。

老婆 顔がパスにならんかね。

ガイドA パスをもってるか。もってないかが大事なんだ。

老婆 本物だよ。

ガイドA もってないと俺たちの責任になるんだ。

老婆 わしはわしにちがいないから心配ないよ。

ガイドA おい、冗談いうなよ。どうして今日はそんなに強情なんだ。

老婆 わしはなあ。今日はパスなしときめたんじや。

エンチンの調整音。

ともツェトナムがある以上。

ガイドB ツェトナムの次、どこへくる。

ガイドA 朝鮮。

ガイドB 朝鮮の次は。

ガイドA 台湾かな。

ガイドB 台湾に火がついている。沖縄は目と鼻だぞ。みんな黙っちゃいまい。それこそ沖縄中に火がつく。

エンチンの調整音

ガイドA (大きな声で) そういう侵略を防ぐために沖縄の基地があるんですよ。

ガイドB 日本の総理大臣みたいなこというな。それらの国は二つに分断させられてる国だぞ。一つになろうとするのは当然だ。ヴェトナムがいい例さ。

ガイドA となると、一つになろうとするのを防ぐ沖縄は……。

ガイドB 番犬だよ。俺たちは、その番犬の番犬だ。軍務の首切が始った。だが、俺たちは首にもならない。いいようで嫌な商売さ。

ガイドA ……

ガイドB 最初は得意だったがなあ。俺の家はちやうど、あの滑走路の下だ。収容所から自分の家に帰ってもいいという。滑走路の下じゃどうしようもない。小屋をつくり

ガイドA そんなこと勝手にきめちゃいかんよ。まだ復帰してないんだよ。それに復帰してもアメリカ軍の基地とは関係ないんだよ。

老婆 ああ?

ガイドA 復帰してもアメリカ軍の基地と関係ないんだよ。

老婆 なんだね。

ガイドA 復帰しても……婆さん、もし、も

つかったら耕作権は取上げられだ。

老婆 もう取上げられた。

ガイドA 取上げられた。

老婆 五月一杯で作物は引換え、馬鹿くさい

役場でどなりちらしてやったが、役場でど

なつてもしやないし。

ガイドA そりや大へんだなあ。だが婆さん

考えようによつちや選りせんならんてグ

チいう必要もなくなつたし、百姓仕事やめ

て気楽に暮せということかも知れんよ。

老婆 バカ者、遠廻りさせるのはアメリカ

だよ。この金網がなかったら目と鼻じや、

それを選りしてゲイトでお前さんらにバ

ス見せて、自分の土地を耕やすのに入れて

いただきます。わしはパスもたずに通つて

みたいんじや。それでパスなし。そうきめ

たんじや。

ガイドA 婆さんが勝手にきめても規則があ

るから。

老婆 勝手にきめたのはアメリカだよ。勝手に土地を取上げ、勝手に飛行場づくり、勝手に畑をつくつちやいかんいうんじや。

ガイドA わかる。だが、俺たちの立場を考

えてくれ。パスの検査をするのが俺たちの

仕事なんだ。

老婆 いい仕事だね。

ガイドA おい、家へいってとつてきてくれ

よ。息子や嫁さんが軍に勤めてるんだから

無茶するとクビになるかも知れんぞ。(老

婆去る) おい、婆さん、おい。

ガイドB 目立つからやめよ。

ガイドA 大丈夫でしようか。

ガイドB 滑走路の拡張と関係あるんたらう

か。

ガイドA もし。

ガイドB 婆さんを気にする兵隊もいないだ

ろう。もし、もしといつていたら、B52が

また、ここに落ちるかも知れんぞ。

ガイドA チェック、まだ写真をとつてやが

る。カデナ、カデナ、ネコも拘りもカデナ

ガイドB 復帰して何年ぐらい基地が残ると

思う。

ガイドA 極東の緊張がある以上残ります

よ。

ガイドB アメリカの大統領みたいなことい

うなあ。俺たちではわかりませんが、少く

るそうだ。立たせるだけで値段が高い。俺たちも立ってるだけで給料が高い。軍務が命がけでストやつて給料あげる。俺たちは立ってるだけで、そのまま給料が上がる。スペシャルポリスちうのはいい気分だ。(二人笑う)

静かになる。再び舞台の左右に別れ舞台は暗くなる。

ガイドB もうすぐ四月、沖縄に春がやってくる。昔から沖縄には春と共にいろんなものがやってきた。唐人がやってきた。薩摩人がやってきた。ペルリがやってきた。大和人がやってきた。アメリカがやってきた。春にはいろんなものがやってくる。これからもやってくる。異様な姿で、異様な言葉で、異様なものをもって。そこで同化作用を起し、異化作用を起す。

ガイドA 春だ。春は沖縄の政治の季節。木

日も基地は異常なし。

ガイドB 木日も基地は異常なし。

舞台上に沖縄教職員会と〇〇県教組。ガイドA Bは舞台上にシルエットで象徴的に立つ。

木土 〇〇県教組です。



沖繩B そうとっていただいては困るんです

本土A いや、まだ、組合員の中には、沖繩の本質をつかんでない者が非常に多いんです。本土にも基地があるんだから、本土並みなら仕方ないとか。何ととっても、佐藤は返還に成功したんだからという、無自覚というか、無力感というか。それに返還という言葉の中にある、失地回復というか、ナンヨナリズムにくすぐられ満足してしまう傾向があるんです。

沖繩C 私たちのかつての日の丸運動です

本土A いや、日の丸運動には抵抗があったと思うんです。抵抗のない日の丸ですよ。

本土D 北方領土と抱き合せてね。

本土B 本土に基地があるという考えは強いね。本土の基地がたんなる戦略基地で、沖繩の基地がアジアへの前線基地、攻撃基地という肝心のことがぬけている。私たちも、卒直なことを申し上げるとぬけていたと思うんです。

本土C だから、デモのプラカードなんかも沖繩を返せがすく多かったです。返せばすべて終わってしまう。

沖繩C そこなんです。アメリカ政府と日本政府に復帰のヘゲモニーを握られたのは。沖繩をテコに安保斗争といわれたが、沖繩

が。

復帰が佐藤方式でなされたことで、逆に安保が安泰になった。佐藤訪米の前に激論になったのですが、沖繩の基地がアジアへの攻撃基地である以上、このまま復帰しては日本国民に迷惑だ。だが、沖繩県民の力では限界がある。復帰後、日本の問題として、日本国民一億の力で解決してもらおう。

ところが、数字的なことだけで、沖繩県民一〇〇万の力より、日本国民一億の力が強いといえるか。必ずしもいえない。日本の問題として解決してもらうつもりでいたものが、そのまま、基地が固定化させられてしまっているんじゃないか。これは思い上がりでいっているんじゃないんです。

沖繩A いや、それは思い上がりだよ。

沖繩B 思い上がりじゃありませんよ。

沖繩A 思い上がりだ。一〇〇万の県民が強いというのは異民族支配だからだよ。それこそナンヨナリズムの限界なんだ。同族支配というのは別の怖しさがある。アメリカの支配の下では日の丸でも斗えた。本土支配に変わったら、そうはいかなくなる。だからこそ、これからの斗いはたいへんなんだ。

沖繩B しかし、もう少し本土の革新が沖繩を主体的に握っていたら、こんな無様な。

沖繩A そりゃその通りだよ。だが、オオカミとの斗いを共に組まねばならないのにそうした本土の革新に対する不信ばかりで頭

をいっぱいさせてどうなるというんだ。足もとをすくわれるだけだ。

爆音。舞台暗くなる。舞台のそでに花売り。

花売り お花、お花はいかがですか。沖繩のお土産はいかがですか。可愛い貝の首かざりはいかがですか。お花はいかがですか。………売れないねえ、ちっとも売れやしない。マジル婆さんはよく売れるが。おしはちっとも売れやしない。お花、お花はいかがですか。

舞台はホテルのロビーとなるが植木鉢ぐらいいい。知事はゴルフのクラブをふっている。

知事 (大きく笑い) そりゃ心配ないよ。

立法院議員A だが知事さん。先日も三山労働大臣に陳情したんですが、職業訓練所の設置や、再就職を強力に押しすすめるというだけで、具体的には何もいわれないんです。

知事 だからいうんだよ。再就職なんて、うちの県だけでも、軍労働者全部引受けてもいいくらいなんだ。今はねえ、労働力の不足で、本土は弱っている。こうして知事自

らが集団就職の勧誘にぐるぐるなんて考えられる。今や、沖繩の労働力はノドから手がでるくらいなんだ。

立法院議員B だが、中高年層は簡単に本土へ行けませんし。

知事 むろん、住宅なんて、政府や県で考えるよ。炭鉱難職者の時なんか、鉄筋で前よりずつといいアパートに住んで。住みば都

といてね、心配ない。

立法院議員A 例え、そうだとしても、政治的にいえない立場なんです。われわれ沖繩自民党だったら、沖繩の産業を傷つけること

となく、工場を誘致するといってきたわけですから。これを一つでも二つでも成功させないと、いかにわれわれの政策が現実的であるかを示せないんです。何しろ、相変らず屋良主席の支持率は高い。これを打ち

くたくには。

知事 そりゃわかりますがね。工場をもってくるというところは簡単じゃないですよ。

立法院議員A それを何とかしていただきたいんです。とくに知事さんは泉電気の吉田社長と極めてお親しい間柄ですし、知事さんから説得していただきたい。

知事 いうことはいましよう。だか、沖繩は土地がないでしょう。いい所は基地ばかりだし、基地は絶対だしね。

立法院議員 ……………

知事 そりゃ、基地に付随したゴルフ場とか住宅なんかの部分の縮少はあるかも知れないが、そのあとに自衛隊をおかにならな

いし、工場をもつてくる余地はないでしょう。

立法院議員B となると、ますます革新がち

ょうりょうする……。

知事 いや、復帰となりやね。あなたたちが心配しなくても、政府がいろんな手を打ちますよ。もうすでに、教職員会対策も考えているようだし、行政、教育、財政の本土

一本化が進めば革新を押えることぐらい、そりゃねえ、一度は激変はきますよ。何しろ二五年間もアメリカの支配にあったんだから。しかし、あなたたちは大船にのった

気持でいらいいんです。絶対悪いようにはなりません。こりゃ大鼓判を押しておきますよ。

花売りが舞台の奥を通る。

花売り お花、お花はいかがですか。お土産に貝の首かざりはいかがですか。お花、お花はいかがですか。

妙な間、知事夫人入ってくる。ホテルの支配人うやうやしくおじぎをする。

支配人 お帰りがいいですね。

夫人 ……只今。

紳士、淑女入ってくる。二人は知事たちと別の所で話合う。

知事 どうだった、ひめゆりの塔は。

夫人 よかったわ。不当に感激だった。い

ね、主人と車で御参拝したんですけど、

の方が(支配人のこと)、ぜひ観光バスで

ついでにわたるもので、でも庶民的でよかつ

たわ。ガイドの説明がいきいきして、

いわたくら、かたくもあらむ……私、泣け

てしまったんです。

知事 女って感傷性だからね(笑う)じゃ、

さつき会で沖繩旅行でもするんだな。ひめ

ゆりの塔あり、宝石あり、大島つむぎあり

でさつき会向きじゃないか。

支配人 ええ、ぜひ、御案内させていただきます

ますから。

夫人 だけど、沖繩なんかにはわざわざ。さつ

き会っておしゃべりの会なんですのよ。有

名人のお話を聞いたり、社会奉仕をした

り。

支配人 そういう方々にひめゆりを御参拝に

なっていたただけでも、沖繩旅行は意義

ある。

立法院議員A 先日、お目にかかっておりま

す。

知事 どのくらいなんだよ。再就職なんて、う

ちの県だけでも、軍労働者全部引受けても

いいくらいなんだ。今はねえ、労働力の不

足で、本土は弱っている。こうして知事自

らが集団就職の勧誘にぐるぐるなんて考え

られる。今や、沖繩の労働力はノドから手が

でるくらいなんだ。

立法院議員B だが、中高年層は簡単に本土

へ行けませんし。

知事 むろん、住宅なんて、政府や県で考え

るよ。炭鉱難職者の時なんか、鉄筋で前より

ずつといいアパートに住んで。住みば都

といてね、心配ない。

立法院議員A 例え、そうだとしても、政治

的にいえない立場なんです。われわれ沖繩

自民党だったら、沖繩の産業を傷つけるこ

となく、工場を誘致するといってきたわけ

ですから。これを一つでも二つでも成功さ

せないか、いかにわれわれの政策が現実的

であるかを示せないんです。何しろ、相変

らず屋良主席の支持率は高い。これを打ち

くたくには。

知事 そりゃわかりますがね。工場をもつて

くるというところは簡単じゃないですよ。

花売り お花、お花はいかがですか。沖繩のお土産はいかがですか。可愛い貝の首かざりはいかがですか。お花はいかがですか。………売れないねえ、ちっとも売れやしない。マジル婆さんはよく売れるが。おしはちっとも売れやしない。お花、お花はいかがですか。

舞台はホテルのロビーとなるが植木鉢ぐらいいい。知事はゴルフのクラブをふっている。

知事 (大きく笑い) そりゃ心配ないよ。

立法院議員A だが知事さん。先日も三山労働大臣に陳情したんですが、職業訓練所の設置や、再就職を強力に押しすすめるというだけで、具体的には何もいわれないんです。

知事 だからいうんだよ。再就職なんて、うちの県だけでも、軍労働者全部引受けてもいいくらいなんだ。今はねえ、労働力の不足で、本土は弱っている。こうして知事自

らが集団就職の勧誘にぐるぐるなんて考えられる。今や、沖繩の労働力はノドから手がでるくらいなんだ。

立法院議員B だが、中高年層は簡単に本土へ行けませんし。

知事 むろん、住宅なんて、政府や県で考えるよ。炭鉱難職者の時なんか、鉄筋で前よりずつといいアパートに住んで。住みば都

といてね、心配ない。

立法院議員A 例え、そうだとしても、政治的にいえない立場なんです。われわれ沖繩自民党だったら、沖繩の産業を傷つけること

となく、工場を誘致するといってきたわけですから。これを一つでも二つでも成功させないと、いかにわれわれの政策が現実的

であるかを示せないんです。何しろ、相変らず屋良主席の支持率は高い。これを打ちくたくには。

知事 そりゃわかりますがね。工場をもつてくるというところは簡単じゃないですよ。

立法院議員A それを何とかしていただきたいんです。とくに知事さんは泉電気の吉田社長と極めてお親しい間柄ですし、知事さんから説得していただきたい。

知事 いうことはいましよう。だか、沖繩は土地がないでしょう。いい所は基地ばかりだし、基地は絶対だしね。

立法院議員 ……………

知事 そりゃ、基地に付随したゴルフ場とか住宅なんかの部分の縮少はあるかも知れないが、そのあとに自衛隊をおかにならな

いし、工場をもつてくる余地はないでしょう。

立法院議員B となると、ますます革新がち

ょうりょうする……。

知事 いや、復帰となりやね。あなたたちが心配しなくても、政府がいろんな手を打ちますよ。もうすでに、教職員会対策も考えているようだし、行政、教育、財政の本土

一本化が進めば革新を押えることぐらい、そりゃねえ、一度は激変はきますよ。何しろ二五年間もアメリカの支配にあったんだから。しかし、あなたたちは大船にのった

気持でいらいいんです。絶対悪いようにはなりません。こりゃ大鼓判を押しておきますよ。

花売りが舞台の奥を通る。

花売り お花、お花はいかがですか。お土産に貝の首かざりはいかがですか。お花、お花はいかがですか。

妙な間、知事夫人入ってくる。ホテルの支配人うやうやしくおじぎをする。

支配人 お帰りがいいですね。

夫人 ……只今。

紳士、淑女入ってくる。二人は知事たちと別の所で話合う。

知事 どうだった、ひめゆりの塔は。

夫人 よかったわ。不当に感激だった。い

ね、主人と車で御参拝したんですけど、

の方が(支配人のこと)、ぜひ観光バスで

ついでにわたるもので、でも庶民的でよかつ

たわ。ガイドの説明がいきいきして、

いわたくら、かたくもあらむ……私、泣けてしまったんです。

知事 女って感傷性だからね(笑う)じゃ、

さつき会で沖繩旅行でもするんだな。ひめ

ゆりの塔あり、宝石あり、大島つむぎあり

でさつき会向きじゃないか。

支配人 ええ、ぜひ、御案内させていただきます

ますから。

夫人 だけど、沖繩なんかにはわざわざ。さつき会っておしゃべりの会なんですのよ。有名人のお話を聞いたり、社会奉仕をした

り。

支配人 そういう方々にひめゆりを御参拝にな

っていたただけでも、沖繩旅行は意義ある。

立法院議員A 先日、お目にかかっております。

があると思うんですが。

夫人 考えてみますわ。それが途中でデモに出あってね。車が動けないの。

知事 (笑い) ここはデモ県だから、いつ来てもデモやってくるよ。(笑い)

夫人 何か東石油設置反対だなんて。知事 なに、……うん、そういえば新聞に書いてあったねえ。(笑い) これじゃ、工場誘致どころじゃないじゃないですか。一方じゃ誘致する。一方じゃ反対では。ええ。

立法院議員B ……何といましても革新系

の強い土地柄でございますし。

知事 いや沖繩って、全くわからない所ですよ。ま、あんたたちの気持はわかりますがね。

夫人 でも、こうした観光地では困りますわねえ。ひめゆりの塔でも汚い小母さんが花売ってたが、ひめゆりの塔を生活の糧にするなんて。

知事 貧困だから仕方がないよ。仕事がないもの。こうしてわれわれが集団就職の勧誘にこれるのもそのためさ。(笑い) 私の考えではね。沖繩は、まず基地と観光を発展させる。そして余った労働力は高い賃金の本土をえらぶ、そうして、バランスがとれた上で産業を発展させる。これだと思わんですよ。

ガйдA それはあなたが願っていること

うちの県に誘致せにゃいかんなあ。(笑い) ワタシニホンゴワカラナイってたどたどしくしゃべらせてこりやまいった。

夫人 そんなに混血児って多いんですか。

支配人 コザの小学校なんか、クラスに二、三人はいると思えます。

夫人 となると、学校教育も大へんでしようねえ。

支配人 しかし、学校も、非常に気を使っているようにして。

知事 それを君が引抜くんだな。

紳士 いや、引抜くなんて。この大城さんのクラブのホステスの子をまわしていただいているんで、

知事 なるほど、となると、琉球観光でアメリカの種を宿し、東京観光へ輸出するんだね。こりや、こりや、まさに日米共存だ。(笑い) いい所に君も気づいた。さすが君だ。うん、君の新しい仕事のために乾杯と

いこうや。(大きく笑う)

みんながグラスを取る。と同時に強烈なジェット爆音、すべてがシルエットになる。反覆される地上攻撃。

ガйдA もうすぐ四月。春がやってくる。昔から沖繩には春と共にいろんなものがやってきた。薩摩がやってきたのは四月、ベ

だ。

知事 なに、(支配人に) なにかいった。支配人 いいえ。

紳士 (知事に気づき) 木村先生じゃございませんか。

知事 え？

紳士 加藤先生に御紹介うけました東京観光の松田でございます。

知事 ああ、銀馬車の。こりやこりや。紳士 奥様でいらっしやいますか。いつも御ひいきになっていきます松田でございます。

知事 加藤君ね、加藤代議士。あの人の紹介でよく行くんだ。

立法院議員A じゃ、私たち失礼させていただきます。私たちは私たちが本土へ陳情に上りますが、ぜひ、お力添えを。

知事 ええ、泉電気には話しましょう。考え

てくれるかどうか知りませんが。どちらにしても復讐にそれほど御心配になることはないですよ。じゃ。

立法院議員たち去る。

知事 まあ、まあ。どうぞ。

紳士 こちら、琉球観光の大城社長で、沖繩

の女傑でございます。

淑女 まあ(解しそりに笑い) 大城でございます。

紳士 知事さんはどうしてこちらへ。

知事 いや、人集めだよ。

紳士 知事さんがわざわざ、大へんですなあ。工場誘致どころか、人集めもせにゃならんて。

知事 (笑い) 全く、うちの県にも、あんたのキャバレーを誘致せにゃいかんなあ。(笑い) それであんたは。

紳士 (笑い) 同じようなことで。私共は知事さんに集めてもらうわけに行きませんので。

知事 女の子をわざわざ。

紳士 ええ、まあ。

知事 沖繩にゃ、そんなに美人がいるの。

紳士 実は、その……(耳ばなしをする)

知事 あいの子？

紳士 混血児です。

知事 ふーん、なるほど。ということは、外人ホステスがサービスするキャバレーちうと、沖繩産なんだね、まいったなあ。あんたたちの考えることは、さすががうねえ。それであんたの所でもやってくるの。

紳士 いいえ、こんど赤坂につくるわけですよ。できましたらぜひ。

知事 そりやむろんだよ。いや、それこそ、

### 新劇人 第二号

150円

△安保体制打破新劇人会議

七〇年へのモノローグ 八田元夫

反対の力を統一して 杉村春子

幅広い国民の力で 木村 功

座談会 「芝居の中からの政治」 爪生正美

大橋喜一

広渡常敏

ふじたあさや

若林 彰

大橋喜一

飯田信之

阿部文勇

発行所

東京都千代田区麹町二ノ一二

TEL (二六一) 六九二六番

ルリがやってきたのは五月、明治の琉球処分は六月、アメリカ軍が上陸したのは四月。春にはいろんなものがやってくる。これからもやってくる。異様な姿で、異様な言葉で、異様なものをもって。そこで、彼らは同化作用を起し、異化作用を起す。ガイトB 春だ、春は沖繩の政治の季節。本日も基地は異常なし！

ガイトA 本日も基地は異常なし！

ジェット爆音。 暗転。

この作品は一話から四話まで暗転の空白はつくりません。つねに花売りにスポットをあて、舞台転換して欲しいと思います。ガイトは舞台の左右でも、どこでも結構です。自由に芝居の進行中も邪魔にならないように使ってください。

作者

みんながグラスを取る。と同時に強烈なジェット爆音、すべてがシルエットになる。反覆される地上攻撃。

ガイトA もうすぐ四月。春がやってくる。昔から沖繩には春と共にいろんなものがやってきた。薩摩がやってきたのは四月、ベ

# 作品にそくして

萩坂桃彦

藤田直登作「スターズ&ストライプス賛歌」の舞台は、アメリカばんざい、毒々しい植民地色いっぱい、ゴージャスなクラブ。支配人が英語混りで店内案内のお喋りをしてくくのが、芝居の筋立て。おそらくネガティブな意味での主題の出し方だったろうと思うが、存外に諷刺に乏しく、クラブの裏側などへのつつこみも浅い。ホステスを集めるカラクリなどにも何かありそうに思うが、それも無い。サービスマンの実態にメスを、というアイデアもわるくないし、スタイルのおもしろさもあつたのだが――。せめて、チネホフの「煙草の害について」にあやかる位の、人間肉づきの配慮があつたらとおもわれた。

「あかつきの忍者」は、渋谷祐司・松本栄両氏の共作。前作とともに、よこはま青年座からの積極的な参加である。忍者二名が今の世に現れて、安保体制下の巷の現象に次々と遭遇する。いわば、「忍者街を行く」物語。

ギャグも盛り沢山、現時の泡沫的泰平への諷刺も効いている。その点での娯楽度は高く、集会でのアトラクションとしては成功したと思うが、さもあつたらうとなすける。だがいかにも無害だ。書き手の方で面白がりすぎている、この程度の押論諷刺では敵さんだっけいささかの痛痒も感じまいというものだ。京浜からは二作出た。

柴田賢次作「波うちぎわ」。組合員も残り少しい旧労を死守していることで、基本的な労働者のたたかいたったものを象徴する弟。会社の経済成長の波にのって新労に移り、一身の栄達をはかる兄。この兄弟の抗争が主軸。舞台は、手内職をする弟の妻と母の描写からはじまる。テーマのナイーブさ、それに立ちむかした真実さ、にじみ出る労働者の体臭のようなものが、一定の説得力を持つ。しかし（ここでもしかしだが）作者の、旧労と新労の対置のさせ方などは、一般通念を出ない。

それは古くもあり、観念的でもあって、ますます空洞化するすむ組合運動の現実の切口を切り裂いて見せるということにはならぬ、それに弟が固執してやまない旧労の具体的なたたかひの様相が分らぬというのはどうしたとか、などの註文が出されて、作者からの改稿を得たが、まだその成果は見えていない。幕切れの処理は安易なセンチメンタリズムのようにぼくに思われる。

黒沢参吉氏の「夜」は、さすがに、内容も型も手馴れたシマリア方を見せて破綻はないが逆に、いかにも作り上手ということがいえた。だろう。労災の重症患者がベッドにいて、その看とりの、婦長と看護婦の対話ですすめられる構成のうまさ、逆に、枕許での喋りすぎだとか、看護婦の夫が二年前にやはり労働災害で、それも処置の手おくれで死んでいることから、安保体制下の労働強化の問題、病院や医療制度の因襲性とのたかひの問題という風に、深まりがなくてゆけ内容がのぞけて来て、テーマも二分三分してくる感じがあつた、その、とりつくりの操作がどうして技巧的になる。婦長と看護婦の足場が、二人合せて一人ということも、ドラマの対立性を殺ぐ。「救いがあるのが氣になります」な

どの、こばやし委員の言葉などもこれに添えらるとなると、作者が、ふるい立って、全面的改稿となつたのも道理であつた。セリフのきめの細かさ、適確さは、西委員などの激賞を買っていた。（ここで委員というのは、70演劇行動作品の選定委員のことである。ほくもその一人だ。）

「でくのぼりの会」の栗木英章氏は、「署名」「通勤路」「銃の場」と三本の作品で参加しているが、まず学ぶべきは、70演劇行動そのことのために「書いた」という事実だ。たろうとおもう。勿論このことは、他の書き手についても云えたであらうけれど、「馳せ参じた」という、びつたり感じがこの人の場合にはあつた。期日ぎりぎりに、プリント原稿を岐阜のセンターに持っていったというよきなことは、やはり、ほくとしては書きとめておきたい。選定委員会と作者との交流の席にも彼は出席していて、ほぼその作品評については納得をえたわけだったが、云ってみれば、よきもあしきもアイデアだけで、さつさと仕上げ、この人の、一種の小器用さである。

「通勤路」などでは、そのへんの所が、あからさまに出ていて、スタイルでは上演の触手

が動くのだが、さてとなると、内容の稀薄さが待ったをかける。主題がナマの型で作者の頭をかすめてゆく。それがそのままセリフになる。そこでは軽快なテンポは生れるが内容は浅い。

だが、「署名」は、ややそうした作者の欠陥を免れた作品であつた。それは、六回程推敲した、そのことが、そのまま役に立っているわけだ。地域の活動家でもあるクリーニング屋が、得意先でもある小さな鉄工所主の自宅へ、ベトナム支援の署名カンパをもらいにくる。主人は仕事のことと頭がいたい。そこにはまた一寸したことで夫婦けんかをして、背しつのもりで実家である鉄工所主の父のもとに戻って来ている娘がいて、この二人を相手の署名カンパの訪問が、極めてとっつきが悪い。このあたり、なかなか軽妙で、気のきいた喜劇仕立になつているのである。普通一般大衆が、ベトナムのことなどには無関心で、小さな自己生活の泰平保存に身をやつしている姿が透徹した観察で描かれる。ほくは、そのことで、署名カンパそのものまでが、いくらかカリカチュアライズされて映るのではないかと気づかされたが、上演された、名演合同公演

の舞台では、その危惧はなかったという、浦委員の報告があつた。安堵した。

なお、この作者の近作、「ここから」は同名のものが二篇あるが、文化評論に掲載されない方について云つても――さらに一歩踏み込んだ良い仕事になつていっている。

ところで、名演集の、鬼藤ちか子さんの「おれの歌」はよくない。作者の視点が散漫だし、登場人物にも脈絡がない。したがって、何を書こうとしたのかも、読者にははかりかねることになる。主人公なども実在のモデルがあつて、なかなか魅力的な青年らしいのだが、これも鬼藤さんだけが分つていて、読者には分らない。この読者には分らないことには例をもう一ついえば、登場人物に、田貫（たぬき）という名前をつけて、そのことで、その人物が半ば描かれていると思ひこむようなところが鬼藤さんには、ある。

ただこの作品の中で、こばやし委員も指摘していたが、体制側が、労務管理の一環として、「結婚仲介」とか「愛のかけ橋」とか、なかなか巧妙な人心掌握をやっていることのスッパ抜き箇所があるが、それは、事柄そのものとしてもおもしろい。身勝手ではいへば鬼藤さんはそのことをこそ、踏みこんで書いて

たらよかったのである。

もう一人の女性の作者—東リ演で演劇行動に女性が二人も参加したことをほくは喜んでゐる。「静芸の小島真木さんの「片隅から」は、この人ならではのねちっこい、独特の匂いとムードをかもしだした生活色濃厚な作品であった。

靴加工内職の主婦が、子供を背負って作業場にいたが、一寸おろしたときに、子供はヤクルトの瓶に入った劇業を誤って飲んで死ぬその死をめぐって、内職労働者の下積生活のひどさや母親の自責の苦悩が描かれてゆくわけだが、沈んだ暗いよどみが、そのまま未解決に残るのである。

この作品を行動のキャンビアにどう組み込むかは、実際には厄介なことになるだろうと思う。思うが、この作品の持つリアリティの重味は、よけて通れない。

しかし、このことは、「片隅から」が作品として開然するところがないということではないのである。素材をゴロリとほうりだした感じの構成の弱さや、部分的な説明過剰のわずらわしさなどは、作者にとって次の課題として克服してほしいわけだ。

甲府やまなみからは「ベトナムからの便り

離れて、演出者が大胆にうち出して、観客に対処してみることも、結果としては、作者への協力になるかもしれない。

岐阜劇作研究会から、武藤道保氏が、職域的特徴をもった「ピラ」「まるまるべけべけ」の二本で参加した。「ピラ」は教員である妻と小市民的な幸せを願う新聞記者の夫との疎隔感が、妻と一しょに安保服業のピラを配って来た老教師の訪れによって一条の曙光をみるという芝居である。キメのこまかい丁寧な書きっぷりだがこどもコンストラクションが、意外に粗い。老教師がすべての鍵を握っているようなのは困るのである。「まるまるべけべけ」も、歪められた教育制度の状況の中で、教師と生徒のどちらかは、生きたスケッチにはなっていないが、やはり、教師の描定が甘い。職業のもつ非人間的な面と人間としての教師という二つの面の隔りがよく、そのことが人物の存在感を弱め、テーマそのものをも弱めるのである。

公害の問題を扱って、主題そのものがまるまる必要のないかたちで、劇団がおの後藤かずよし氏から「ゼンソク」の街から」がよせられてきた。それはたしかにいろいろな意味で必要だった。しかし、この公害という問題

「(中川恵司作)「神繩からの手紙」(小谷

道雄作)の二篇。とくに、中川氏の作品は成長いものである。シュプレヒコールというよりも、一種の群唱によって、ベトナムへの一千年にわたる中国の抑圧、六〇年におよぶフランスの制圧、続いて、イギリス、日本、そしてアメリカによる被圧迫民族国家としてのベトナムの歴史を、息の長い言葉で、ひたむきに綴った労作だが、こどもコンストラクションの弱さが目立ち、文献からの丁寧な引用の域を出ない、つまり、論理上での作者のオリジナリティの不足が、読後の印象を淡くするのである。こばやし委員からは、70年に即応するというのでは、このベトナムの捉え方では、用をなさないのでないかという意見、しかし意外にベトナムについては知られていないのだから、これはこれで評価したいという浦委員の意見——改稿ということもこういう意見を付しては厄介な仕事となつたようだったが、かなり簡潔になった手直しが送られてきた。この本は、是非、時によって、活用してほしいとぼくは思う。

小谷氏の作品は、上演三〇分程の構成詩劇本土で勉強している教員志望の神繩の青年と神繩で基地労働に従事しているその恋人とのも、一般的なヒューマンイズムの視点では、さつさと公害が先を越してまかり通ることになるだろう。後藤氏の描いた、一僧侶の善行録というのでは——作者の意図にかかわらず印象はそうだった——この現実にあらわれているむごさのどこかを撫でるとどまった所作でしかない。

作者に怒りがあるとすればそれはどこからどこに寄せられているか。それは観念としてのヒューマンイズムでか。どこにも通ずるシムパシイでか。この切り返しは、始めて戯曲なるものを書いてみた、という後藤氏には、酷なことになるが、きくところによると、今や、彼は、懸命にこの主題にとりくんだそうである。

枚数も尽きたところで、はぐるまの島源三氏の「小さな駅のある物語」がある。云つてよければ、これは、70演劇行動の東リ演でのよりどころとなった作品の一つであった。

アメリカの軍事輸送に使われた貨車が、あんな小さな駅の近くで、台風の土砂崩れに会い立往生する。火薬を積んでいるので事故のおきなない様に必死になる駅長。機密が洩れてはと駅長を脅迫する公安委員。しかし事態は刻々明るみになる。結局、貨車の衝突のごう音

対話が手紙形式で語られる。この恰好なスタイルも対話の内容の乏しさに生きない。神繩に寄せる若者たちの愛情も、占領制度への呪咀も、格別に、えぐるようなものとしては伝わってこない。むしろ、それは甘い心情的なものだ。このことは、神繩そのものへの踏みこみの不足、本土と神繩の矛盾が、どう、若者たちにとらえられているか、などの、作者に、挑みの姿勢が欠けていたためとおもわれる。

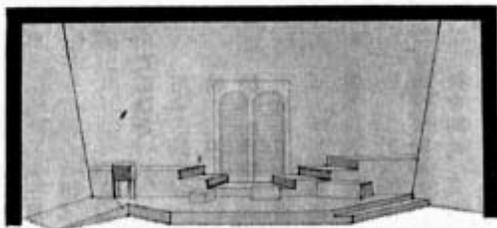
神繩のことでいえば、こばやし・ひろし氏の「オキナワ」を、こどもと取りあげるのが都合がいい。作者は、この小篇について、70行動参加作品ということのためらいをもっていろいろ言いが、それは、つめていけば、神繩の捉えにくさ、というより、神繩の現実をどう受けとめるかの、作者においての、客観状況の変化に伴う主体性未確立の問題としてあるように、ぼくにはおもえる。作品は鋭く、正調は得ているが、どこかベシシチックである。この作者に宿つた神繩に対するいらだたしいベシシズムは、つづいて、一晩ものの戯曲「オキナワ」としても発展しているが、なおこの苦業はつづきそうである。こういう、いわば「過程の戯曲」に対しては、作者から

とともに不安深まる中で暮らしている。雪備についていたG Iの酔っぱらったわめきちらしや、気の小さい助役がさいごには気がふれるなど、ヴィヴィッドな描写とかんげつな会話で幕切れへせりあげてゆく劇構成のたしかさはなんとしても手ごたえがあった。駅長、G I助役、公安員などの生彩を放つた描写に比べて、現場労働者の描き足りぬことが註文として出された。

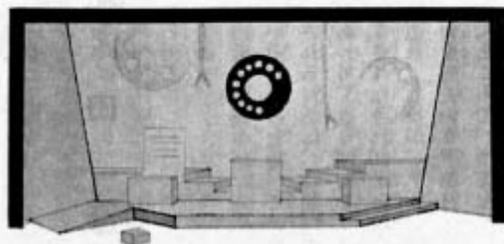
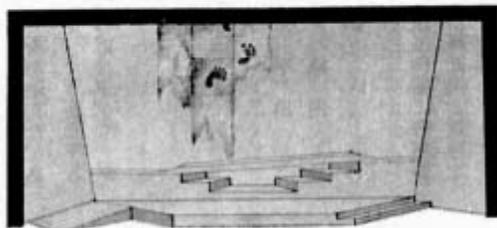
以上、十六篇が東リ演での参加作品の全部である。

最終的にはこのうちから、誌上紹介は五篇ということになったが、これはあくまでも、紙数制限のもたらしたものであることをことわっておきたい。改稿依頼をふくめて、このほかに、「波うちぎわ」「通勤路」「ベトナムからの便り」「ピラ」「ゼンソク」の街から」の五篇、合計十篇が選定されたのである。

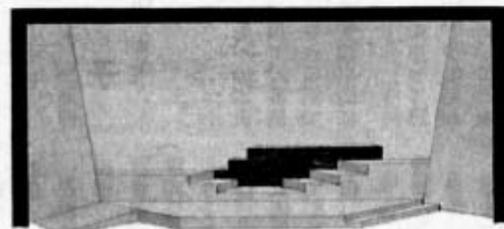
— 事前協議 —



— モーレツ教育 —

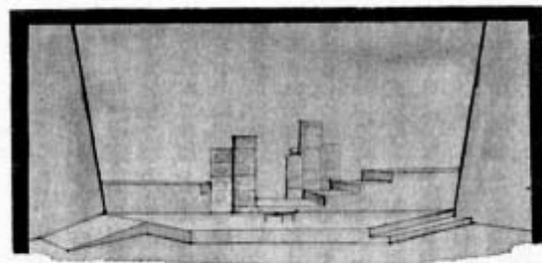


— 通話停止執行 —

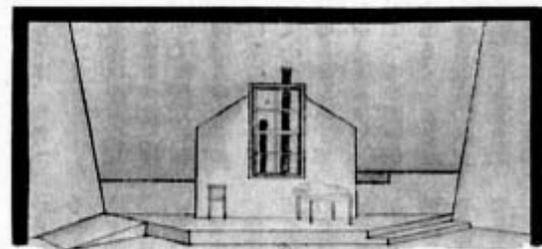


— ヒロシマ1969 —

装置デザイン ■ 内山千吉 (名古屋演劇集団)

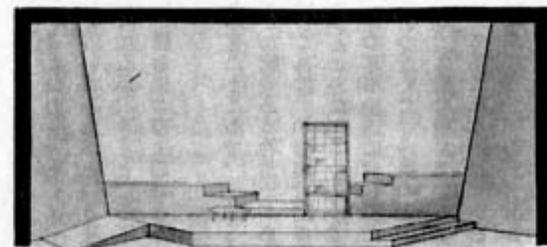


— 署名 —

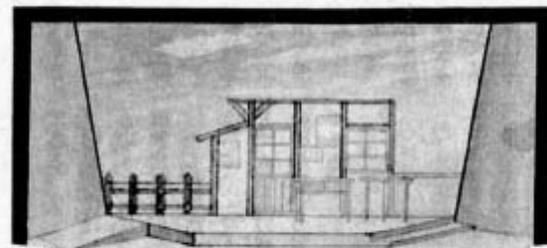


— 夜 —

— 片隅にて —



— 小さな駅のある物語 —



— オキナワ —



# 事前協議

和田 澄子  
(劇団 未来)

◇とき 一九六九年八月中旬

◇ところ 市政領域内に、関西経済圏の表支関である「関西国際空港」と、飛行機の製造・修理を主とする日本独占の一つである「三星重工」をかかえた、ある市。

商工会議所の応接室。

◇しるひと

市長 / 前田  
助 役 / 諏訪  
総務局長 / 佐野  
三星重工・工場長 / 平田  
労務部長 / 陳内  
警察署長 / 横山

市役所幹部と、三星重工幹部に警察署長を加え、月一回、情報交換と親睦をかねて行なわれている定例昼食会の日

である。

市幹部の連中が、先に到着し、顔ぶれがそろいのを待っている。以下、展開される対話は、時間待ちにされる話であって、さりげなく、日常茶飯事的になされなければならない。

市長、助役が、テレビの前に座って画面を覗いている。総務局長は、少し離れたところで、所在なりに、素手でゴルフのクラブを振る真似をしている。

テレビのアナウンサーの声 つづいて台風情報をお知らせします。台風十九号は、北緯××度、東経××度にあつて、ゆっくりと北上しています。中心付近の気圧は××ミリバール。半径××米以内は、三十米以上の暴風雨となつております。本土への影響は、明後日ぐらいいなると思われますが、今後の台風の進路には、十分な、警戒が必

要だと気象庁では発表しています。つぎ…前田 (テレビをきつて) まだ八月の中旬やというのに、もう台風の影響ですか。今年には、どうやら大型が見まうという予測やが秋が思いやられますなあ。天災でなければ人災に政策、なんとも物情騒然たる年になりそうですな。

諏訪 今年から来年にかけて、日本列島は暴風雨になりますよ、今から万全の対策をたてておかないと。

前田 すべてが、あとの祭りということにならんようにね。

佐野 (二人に近づいて) おそいですね、三星重工さん。いつもは私共がお待たせする方なのに。定例昼食会の変更とか何とか、会社の方から連絡はありませんでしたか？助役さん。

諏訪 いいえ、私は何も連絡なんか受けちゃいませんよ。市長さんの方は？

前田 私も知りませんよ。変更という事はないでしょ。

三星重工労務部長・陳内が、急いでやつてくる。

陳内 おそくなりました。実は工場長が今朝から本社の会議にでておりました、直接こちらの方へくるという連絡が、つい先程ございましたもので、申訳ございません。

前田 そうですか。どうなさったのかと思つてたところですよ。結構ですよ、私共の方には。

陳内 あの、工場長が、用地の件はどうなつておりますでしょうかと、伺つておく様に申しておりますが。

前田 あれはねえ、弱つとるんですよ、もともと市民公園の予定地として、市が買いあげた土地でしょう。それを、三星重工さんにお譲りする腹つもりにしていたんですが、どうやらその話が洩れたらしくてね。地元が反対しとるので、ねえ、佐野君。

佐野 はあ、元あの土地をもつていた地主と用地周辺の住民が役所へ陳情にきましたね。陳内 どこからさぐつたんでしょうねえ。

諏訪 役所でも土木課の一部しか知らない筈だ、この話は。ことを起そうとした危険分子が外部に通報したに決つてるよ。

佐野 意識的に知らせたのか、資格上の手落ちか、その所ははっきりしておらんやないですか。

前田 会社の方で口をすべらせたということ、は、考えられませんですか？

陳内 とんでもございません。私共の会社の社員の方は企業意識に徹しております、機密保持については、おそらくは自衛隊以上、という自信がございます。ましてや、会社の不利益になることやございませんか。

諏訪 役所内部にいる危険分子に決つてますよ。それが証拠に、マル共議員が地元民のうしろで糸をひいているらしい。放つとけば住民共斗になって、座りこみや大量宣伝で、前田市政と対決しようという所までいきますよ。

佐野 断定するのは早論やないですか、職員が通報したなんて。諏訪さんは何事でもヤマツケないと気がすまん性質らしいが。

前田 証拠もないのに、誰があやしいというのは危険ですよ、諏訪さん。だがねえ、管理上の手落ちと佐野君が言われたが、どうも職員の仕事ぶりが全体にルーズたねえ。何とかいい対策がないもんでしょうかなあ(と他人事のように)

諏訪 管理体制がゼロだからですよ。始業時に、職員が全員登庁していた例がない。私が就任以来、部課長には相当厳しくい

てきたつもりですが、一般職員には、さっぱり効果がない。勤務時間中に、食堂、売店の利用は自由放任、昼休みの窓口には一人も居らん、昼すぎには、職制の目を盗んでマージャン屋へ出発する奴も居るといふことだ。こんな放漫な職場をみた事がありませんよ。

前田 そうきついな事を言いなさんな。それは解つてるんですよ、ねえ佐野君。

佐野 諏訪さんは何彼につけて三星のことを引あいだされるが、役所には役所の事情があるんですよ。

諏訪 今度のことに限らず、放漫な管理体制では、今後どんな問題が起るか解りやしない。この際、思いきつた処置が必要だと思えますね。

佐野 この間の配置がえだけでも、時期外れの配転やと、組合が抗議したんでせ。これ以上の深追いはやめた方が無難ですな。

諏訪 総務局長さんが、その低姿勢やから組合がつけあがるんですよ。

佐野 助役さんの挑戦的な態度が、執行部の感情を害したんですよ。配転問題が一応落ちついたのは、執行部が私の長いつきあいを信頼してくれたからです。

諏訪 そうでしようか。あの事件を、七〇年  
斗争の糸口にしようとしたが、一般職員が  
ついていかなかった。私はこう見えますがね  
え。執行部さえ入れかえてしまえば、服務  
態度を正常にするのは訳もない筈です。

佐野 執行部だけと見るのは甘いですよ。六  
〇年斗争の経験者が半数以上なんですよ。  
あの頃安保斗争のアフリを受けてうちの組  
合が、現業部の大巾賃上げを前面にだして  
パキューム車もゴミトリ車も一台残らず市  
庁舎前の広場にとめてしまおうたんですよ。  
警察にも土建業者にも応援をたのんだが、  
いかんせん、ゴミもし尿も解決できん、市  
民の苦情は殺到する、涙をのんで組合の要  
求を呑まれた前市長の奮戦記は、助役さ  
ん三星重工におられても、ご存知の筈やあ  
りませんか。仕事の能率が少々あがらんで  
も、職員が組合活動に熱中する事を思えば  
目をつぶった方が得策ですよ。

諏訪 六〇年と七〇年では情勢が違います。  
護身策でのりきる時期じゃないと思います  
この際、組合に先制攻撃をかけて、徹底的  
にたたいてしましましょう。

佐野 三星さんの様なおとなしい組合とは訳  
が違いますよ。強硬策はくすぶりにガソリ

な証拠でもあがらない限り、秘密をもらし  
たということでは処分できないじゃないで  
すか。あなたの首が危ないですよ。

佐野 服務規律をだして服務態度を厳重にし  
ましょう。公務員として秘密の保持は当然  
の義務なんやから、内部規程を徹底させま  
しょう。

前田 そうですねえ、仕様がないうすなあ、  
服務規程の提出は。(助役をへる)

佐野 ただし、基本給にイロをつけて下さい  
よ、組合と取り引きの材料は必要です。

諏訪 基本給の一律アップで取り引きをする  
のおつもりですか？金とひきかえにするな  
ら、まじめに勤めているものが馬鹿をみな  
いように、勤勉手当で差をつけましょう。

佐野 それではとても呑みません、組合が  
諏訪 あー参った参った。ここまで組合の顔  
色をみる総務局長をみたことがない。

前田 服務規程をだすことには反対じゃない  
んでしょう、助役さん。言いつぎは慎しん  
で下さいよ。

諏訪 服務規程だけで組合が近代化できると  
思っておられるのですか。佐野さんのやり  
方にはとてもついていけそうもない。辞令  
を返上したい位ですよ。

ンをぶっかけて大火事にしてやるようなも  
んです。そうでしよう、市長さん。

前田 困りましたねえ、どちらにも一理があ  
る。労務部長さん、客観的立場から、どう  
思われますか？

陳内 とんでもない。私は只、新工場拡張計  
画の方を早急に実現させたいという、工場  
長の意向をお伝えしたまででございます。

前田 あとは書類上の手続きだけですから、  
大丈夫ですよ。それは総務局の方でうまく  
すすめますから。

諏訪 不用意な事を云われちゃ困りますよ、  
市長さん。佐野さんがお気の毒じゃありま  
せんか。うまくだなんて役所の状態からい  
ってできるわけがない。いつ又スッパ抜か  
れて総務局長が組合の槍玉にあがるかわか  
りゃしない。ねえ、佐野さん。

佐野 私は知りませんよ、そんな話は……。  
陳内 そんな事をおっしゃらずに、お願いし  
ますよ、総務局長さん。

前田 私だって自民・社会の共同推薦の市長  
なんだから、地元の反対を押しきってまで  
やるのはいやですよ。

諏訪 となると、会社の方の計画を変更する  
事だね。

佐野 私は大巾に譲歩したやありませんか。  
その上、責任をもったんです。こんな賢い  
人につき合うのはこわいですよ。

二人むっつと沈黙する。気まつい空気が  
流れる。

陳内 (一枚のスナップ写真をとりだして、  
この場の空気をとりなすように) ねえ、市  
長さん別腹でしよう、オッパイの盛り上り  
腰の線、……この娘、笑い顔が特に可愛い  
い。まだ二十才なんですよ。どう  
でございますか、こう云う女の子。

前田 (ドギマギして) ど、どうですかとは  
君……

陳内 嫁入りの口があれば、世話をしやっ  
て下さいよ、助役さん。

諏訪 どここの娘なの、これ。  
陳内 それが困ったことに、うちの社員なん  
ですよ。

諏訪 ほー？、何か欠陥があるんですか。  
陳内 そんな可愛い顔をしていて、ただ者  
じゃございませんですよ。れっきとした  
民青さんなんですから。

諏訪 わからんもんだねえ。(佐野に渡す)

陳内 計画の変更？ ご冗談は許して下さい  
よ。防衛庁の三次防計画でファントムF4  
Eの機軸は、わが社が、一手にひきうけて  
いるのですよ。新工場の拡張ができないと  
なると、受注に応じきれないのです、助け  
てくださいよ。

諏訪 だからだね、第三次防衛計画の変更を  
防衛庁、自衛隊にお願いする事だね、こち  
らの事情を説明してね。

佐野 私は何も国の計画を変更しろなんて、  
言ったつもりはありませんよ。

諏訪 論理必然的にそうなるじゃありません  
か。

佐野 ……やりますよ、書類の方は私の責任  
で。

諏訪 総務局にも六十年斗争の経験者がいる  
んじゃないですか、責任をもてるんです  
か？……現在の地方公務員法にも第34条  
に確かに「秘密を守る義務」がある。だの  
に、どうして今回の三星重工さんに譲りわ  
たす土地のことが事前にもれているのかね  
……地公法の服務規程は、何といっても大  
ざっぱだし、憲法第二十一条「表現の自由」  
との関連での論争もあるところだ。それに  
何といっても、当事者が口を割るか、確か

陳内 まあ、みて下さいよ、こんなにあるん  
ですから。

警察署長、横山がやってくる。

陳内 あ、ご苦勞様でございます。

横山 いつも、どうも。

前田 いえ、こちらこそ。  
陳内 (横山に) 先日の市民会館でのペトナ  
ムの映画会、うちの社員でも券を買った連  
中が相当いるんですよ。もちろん雑魚ばか  
りですが。

横山 やっぱり、例のルートから入手したん  
でございますね。そのルートが、もうひと  
つはつきりしないんでね。

それぞれ、写真をながめる。

前田 映画会の参加者ですか、ほう。夜だっ  
たのに、よう写りましたねえ。

陳内 はい、労務係が苦勞致しましてねえ。  
組合は、券の斡旋をしてないんですよ。ごさ  
いませよ、あの種の映画は、それでもこうなん  
ですからねえ。組合の役員選挙で、確実に  
三分の一の批判票がでるといのが、この

連中なんですよ。勿論、これは現場の連中だけですが、こういうことをくり返すと解るんですね、所謂影響範囲というのが。労働・労音のサークルは、音協のサークルを育成することによって、すっかり姿を消した筈なんです、こういう所を足がかりにして非公然活動が勢力を伸ばしてるんですね。然し、泣きどころは、主謀者が解らないことです。思想攻撃の分野はおそろしいです。

**横山** 青年スポーツ祭典に参加したメンバーも、ダブっておる様でございますね。

**前田** 青年スポーツ祭典といえば、アカの主催の運動会ですね。

**陳内** はい、そうなんです。工場の運動会には手当まで出すのに、偶然に急病になったりするメンバーが、青年スポーツ祭典には手当で参加し、新記録をだしてみたりねえ、不思議なことが起るもんです、全く。これらの一連のグループが、安保・神繩の地区集會には、組合が参加してないのに個人資格で参加するんですから、手に負えませんですよ。こういう合法部隊と、こういう所へは絶対顔をださない非合法部隊が居るのです。

**横山** 民間会社は、経営がかかっていますから大変でございますよ。

**諏訪** 役所はその点、気楽なもんです、市長さん。庁内の掲示板には組合ニュースがわがもの顔の上に、労働・労音のボスター各種サークルに、研究会、集會の案内……地方公務員に対しては文化活動まで規制する法律はないんだから……。

**佐野** 現在の法律では、こちらも手をしばられてるんです。

**横山** はあはあ、役所の方も大変でございますね。

**前田** 署長さんが羨ましいですよ。

**横山** はあ、国家公務員は政治的に無色という事になっておりますので。ただ、ビンタから向うがとりしまりの対象になっておりますんですよ、はい。

**陳内** 私共の方では、従業員の日頃の言動に細心の注意を払っておりますのでございますよ。「安保廃棄」「神繩即時全面返還」「統一戦線」……こういう特殊用語を日常的に使う者は、すべてチェックする様に、係長、職長に言い渡してあります。ところが、こういう事でも絶対尻尾をださない連中が居るのです。

**諏訪** これもおたくの社員ですか？（役所の吏員であると解っていて、労務に一枚の写真をみせる）

**陳内** いや、これは違いますね（佐野に渡す）

**佐野** ええ。これは、この間配置転換した組の一人ですよ。（前田に渡す）

**前田** うーむ、似てますねえ。

**諏訪** やっぱり総務局長さんの仰言った通りですよ。市職労働部の中だけでなく、一般職員の中にもマル共の影響があるということになりますねえ。さすがに長年の経験で職員の間はよく存知なんだ。

**佐野** そんな事はないですよ。

**諏訪** 執行部だけがマル共勢力と判断していた私は、甘かったですよ。

**佐野** えらい風向きが変りましたな。

一瞬の沈黙。

**横山** 今日の風はどことなくひんやりして、まるで秋の気配でございますねえ。今年の秋は、私共は大変ですよ。国内反戦デーに秋の公務員共闘。それに、首相の訪米。

**前田** 又、そろそろ年中行事が近づいてきましたね。

**諏訪** 昨年の秋の統一行動の処分は適正でしたね、役所の情勢からいって。

**佐野** いやあ、今年は日本にとって大事な年だし、処分についても、もう少し考える必要があるでしょう。

**陳内** 昨年の国内反戦デーには、神経が逆立ちましたですよ。何しろベトナムからの修理機を、当日までに全部、神繩へ移動させたんですから。あの日が近づく、従業員が目ざらつくのは仕事のきつさの故だけではないんです。屋内作業も機体をかくす為にシャッターをおろし、窓をしめきって、職制がつきつきりさせるんです。それでも解るんです、あの日は。ドリルを握る奴らの頬がひきつっているのが。あんないやな日はございませんですよ。おまけにデモのコースが、工場の横の堤防の上を延々と続きます。アメリカの手先になるな」「神繩をかえせ」と、工場に手をふってみせたりするんです。工場の内でも手をふってくれば、マル共勢力の幹部がつかめるんですが、奴らは絶対に尻尾をださない。もっと勢力が大きくなるのをじっと待っているんです。かえって無意味ですよ。

**横山** そういう浸透作戦が一番手に負えない勢力をたくわえて一気に合法化する。マル共の中でも、三星重工さんのような重要拠点は、重要視してこの市のマル共組織とは別組織になっていきますので仲々全貌がつかみにくいのです。役所さんのように、デモコースの先頭になって旗をたててくれると助かるのだが。

**前田** 佐野さん、今年は組合、どうでるだろう。昨年は、時間内三十分の集會で終わられたが。

**諏訪** ま、実質十分位だったじゃないですかあれ位なら承認した方がいいのじゃありませんか、総務局長さん。

**佐野** さあ、今年は七十年の前年ですからねえ、組合も昨年通りという訳にいきますまい。

**諏訪** そうでしょうか。（市長をみる）

**佐野** 何しろ現業部にエネルギーをもったこわい連中が多いですからねえ、その要求をくみあげて執行部が手をつないだら、相当きつい線を出してやるでしょう。

**陳内** 運悪くうちの組合の改選が、来月なんですよ。去年の三分の一の現執行部批判票が、どこまで延びているか、一寸目当がつ

かないんですが、市役所の盛りあがりやりに刺戟されて、わたしの方の現執行部がひっくり返ったりすると、それこそ日本の進路に影響しますよ。

**前田** 私は、当選の時に、組合との約束があるんだし、明らかに押える訳にはいかなんですよ。

**佐野** 現業部さえ執行部から切り離してしまえば、問題はないですねえ。

**諏訪** そんなこと、できっこないですよ。どうやってそんな事ができるんですか。

**佐野** 例えば、他市の例にならって、現業部と一般職の賃金体系を二本立てにするんです。

**諏訪** 今でも實際上、現業の連中は係長や課長になれる筈はないんだし、四等級どまりでしょう。二本だてにする必要はないじゃありませんか。そういう判裁的な手段をとると組合がだまっておらんですよ。

**佐野** だから、現業部には三千円の基本給アップするんです。三千円アップなら口実はないやありませんか。それでもどう

というのアカに決つてますよ。

**諏訪** 組合割れますよ。それでもいいんですか。

口実はないやありませんか。それでもどうというのアカに決つてますよ。

佐野 仕方がありませんね。大事の前の小事は殺さねばなりません。

陳内 思いきったことを言われますね。

陳内 そのうえば、三星重工の労組運動にも似たようなことがございました、初期の頃に。社員は本社採用に工場採用にきつちりと区分けして、社員の最低賃金の大中アップをやったことがございました。助役さんが組合委員長時代じゃございませんでしたか？

陳内 昔の恥をいうんじゃないよ。あの頃は朝鮮戦争の特需ブームで、ナッパ服の連中が残業に残業でも追いつかんで大した景気だったんだ。大卒の事務所の連中が工場へ入りたがって困ったんだ。社員と工員の格差がひどかったんだから。

陳内 三星重工の基礎ができたのが、丁度あの頃でございましたねえ。

前田 変れば変わるもんですなあ、組合の委員長がねえ。

陳内 本質的には一貫してますよ。会社あつての組合ですよ、国があつての国民ですよ。私はだから、やる気のある人間は多いに認めてゆく方針ですよ。会社時代にも、勤労意欲、向上心をもたせるために、提案制度

無欠勤運動の功労者には、思いきった表彰制度をとりましたよ。けれども総務局長さん、とてもあなたには及びません、組合を割るのに、二本立て賃金を採用するとは妙案ですよ、……なる程、現業の連中は三千元アップには弱いでしょう。

佐野 それで斗争指令をだすとしたら、組合執行部内でも意見が割れるやろうし、一般職、現業職の中で指令についていくのは、よっぽどの馬鹿ということになる。組合がタテに割れるか、ヨコに割れるかはしらんが、要はマル共勢力を後退させたいらしいんですよ。

陳内 そうですね、全くその通りです。郷に入れば郷に従えだ。これからは総務局長さんの方針に従いますよ。若いくせに思いあがつて、口の過ぎた点は、どうか気を悪くなさらんでください。

佐野 いやいや。ところで、市長さんにも相当な覚悟をしてもらわんとのりきれませんよ、当選の時のいきさつがありますから。

陳内 組合にクサビを打ちこんだらその点は大丈夫ですよ。

前田 こないだの都議選の結果でも、社会党の衰退は明らかだったやないですか。私は

かねがね、中央直結の政治でないことやれんことを痛感してゐるんです。私には遠慮せず新賃金表の導入と服務規定の制定、断行しててください。

陳内 秋の統一行動までにすべてを完結させてしまひましよう。社共の統一戦線が今のところまだ、実現してない。この時期がチャンスなんだ。

佐野 とすれば、こちらは早く手をうってしまひましよう。

陳内 ……だが、だすについてはキッカケが必要ですね、キッカケが。

三星重工、工場長、平田がやってくる

平田 やあ、どうもどうも。秘書が商工会議所やいろいろを忘れてしもうて、会社へ戻ってしもうたんですね。えらいすまへん、市長さんも、署長さんも。

陳内 会議の方はどうでございました？

平田 わが社の前途に希望をもてということ、自信をもつて社員に徹底して下さいや。労働部長、職員的心をくわむことがわが社の発展のカギなんです。部下は大事にせんといけませんよ。お得意さんは防衛庁

前田 なるほど。目的と時期と方法が、これ

平田 ああ、それよろしいな、それにしまひよ。

佐野 やっぱり、助役さんは切れるお人や。

陳内 七十年代の情勢が異なりますよ、わが市の。案を練つたら、署長さんにお願ひにあがります。

横山 は、ようございます。

平田 市長さん、工場拡張の用地の方頼みませ。市議会の方は、私が手をまわしときましたから。

前田 ええ。こちらは万事予定通り。

平田 来期の市長選挙は、自民党の公説をとつてやりまひよ。まかしといってください。

前田 お願ひします。

平田 さあ、今日はひとつ、パァーといきまひよ。わしがええとこへ案内しまつた。

陳内 君、下に車を待たしてゐるから、例のと

ころへ。

陳内 は。どうぞ。

三星重工労働部長・陳内、前田市長、佐野総務局長、横山警察署長を導いて

や、防衛計画には景気も不景気も関係ないのやから、わが社におる限り繁栄は疑いなしちゅうことを解らせんとね、国産品の輸出も強刀に政府に頼らさかけてるしね。武器の輸出がいかにちゅうのなら靴一足、シャツ一枚でも兵器ですがな、ハッハッハッ。兵器生産の関連企業が、第四次防衛計画をリードする時代になったんです。これからは、ミサイルの製造、開発で防衛庁の尻を叩いていくんですわ、ハッハッハッ。前田 三星重工さんは、兵器製造のトップメーカーですから、会社の発展は疑いなしですね。

平田 しかし、署長さん、反戦の連中をもうちょっとうまいこと使うて、安保反対の勢力を全体的に静めてもらわんとあきまへんなあ。安保の自動延長やなんて、ほんまに情けない話でっせ。なんで、もういっぺん固定期間をつくらんか、なんで再改定できんかいうことですか。政府が七十年の対決をこわがとるからですよ。自動延長になつたら、一年、一年が平和の危機にさらされるんやおまへんか。困ったことだつて七七年の選挙から自民の票が五十%を割つとる、……民社党や公明党にも働きかけて

新しい政権をつくることも大事やが……仮りにでっせ、何年か先に、社共の連合政府でもできて、安保廃棄通告ちゅうことになつたら、わが社も日本も破滅ですわ。反戦やトロッキストに、もうちょっと暴れてもろうて、キッパリと治安の安定をしいて下さいや。

横山 工場長さんからの資金は、有効に使つております。……さき程、「安保の固定期間をなんぞつくらんのや」といわれましたが、工場長さんの本当の腹は、安保条約を破棄して、日本の国は日本で守るといふ、自主防衛論、つまり自衛隊の強化じゃないですか。

平田 ハッハッハッハッ……ま、何ちゅうても平和ですなあ、自主防衛で平和を保つ。平和のために、兵器の生産の必要性は絶対です。(市役所幹部三名に)平和を甘うみてたらあきまへんでえ。

陳内 (思いついて)市長、総務局長さん、新賃金体系、服務規程をしく前に、警察に頼みましよう。どうしてこれを思いつかなかつたかなあ。組合に斗う口実を与えない。そうだ、お耳を拝借。(一同に耳うちする)ね！

三星重工労働部長・陳内、前田市長、佐野総務局長、横山警察署長を導いて

平田工場長と諏訪助役は、自然な形によそおって、この場所に残る。

平田 いやあ、ご苦労さん、ご苦労さん。うまいこといきましたな。……地元民の反対位は演ぜませんがな。

諏訪 労務部長がうまく泣きをいれてくれましてね、……総務局長の方は案外すららと手に乗ってくれたんですが、市長はあれでなかなかの狸でしたよ。

平田 ハッハッハッハ。市長もそのうち、あなたに寝首をかかれることになりましたわ。諏訪 さ、参りましょう。嵐の前に乾杯ですよ。残された時間は少ないのですから。

— 幕 —

- ① 戯曲は、大阪での上演を考えて、一部関西弁で書かれた部分がありますが、各地の上演には、適当に土地の言葉にかえて下さい。
- ② 飛行機生産の三星重工の工場長と労務部長が登場しますが、上演地方の軍需産業の人物に変更してもらっても結構

④ 上演の連絡は、左記までお願いします

④ 劇団・未来 連絡先  
大阪府茨木市駅前一丁目九番二九号

森本景文方  
TEL 〇七二六・二三・三五三九番  
大阪市住吉区长居町東四の五二一  
山田玲子方  
TEL 〇六・六九一・一四二三番

**演劇会議** No. 14  
3月発行

発言 ■ なかまの素顔 ■ 劇団通信  
 70年と創造の課題……………西リ演座談会  
 関西プロレタリア演劇史から……………大岡欽治  
 ■ 東の劇評 ■ 西の劇評  
 九州の地元劇団と労演……………猿渡公一  
 長野県5劇団交流会……………黒沢参吉

— 東西リ演のうごき —

70演劇行動 / 西リ演創作学校 / 東リ演創作会議  
 西リ演作家・演出家会議 / 東西合同運営委員会

# モーター教育

## 文工隊「芸 労」

■ 人 物

おやぶん  
こぶん 1  
こぶん 2  
こぶん 3

音楽とともに、泥棒たちの一団登場。ヌキ足、サシ足、キヨロキヨロと、パントマイムよろしく。こぶんの一人、背中に大きな風呂敷をつみ——

おやぶん ヤロードモノノ  
みんな ヘーイ……  
おやぶん (ふたたび) ヤロードモノノ  
みんな ヘーイ……  
おやぶん なんでイ、その返事は……聞抜け  
た声出しやがって、もっとキビキビした返  
事をしろいノ、もいちどノ、ヤロードモノノ  
みんな ヘーイ……

おやぶん ……あアだめたな、だめたな、おれイヤンなっちゃった……

こぶん3 あの、おやぶん。どうもこの、おやぶんが、ヤロードモノ……とこういうでしよ、だから、おれたち、ヘーイ……とこうなつちやうんですよ。だからおやぶんのほうも、みじかく、こう、ヤロードモノヘイッと、こうね、みじかくやってくれと、おれたちも、ヘイッノて、こう言えらと思うんだけど……

おやぶん あ、そうかそうか、ヤロードモノヘイッノだな、よしやってみよう。いいかウん……ヤロードモノノ

みんな ヘーイ  
おやぶん ヤロードモノノ  
みんな ヘーイ  
おやぶん (首をかしげ) ……ヘーイか……  
ヘーイッてのは、どうもしまらないな……  
ま、いいや、時間がない、どうも前おきが

長くなった。ええ、じつは、今日特別に、お前エたちの返事にこだわったのは他でもない。当節シヤバでは、社員教育というところが喧しく言われておる。言われてみればわれわれ泥棒業界においても断絶の時代だ。これまでのイメージを、チェンジして、おやぶんであり社長であるおれは、社員であるこぶんのお前らを、徹底的に教育しようと思う。特訓だ、いいか特訓はきびしいぞ。根性をもってこの特訓に耐えよノ

みんな ヘーイ。

おやぶん、風呂敷をつみから、スポンジ製の棍棒をとり出し、やにわに、地面を叩きながら叫びはじめ。

おやぶん 根性だ根性だ。根性だ根性だ。落伍する奴は根性がないからだノ私は誰にも負けない根性をもって、企業競争を勝ちぬくぞノ勝ちぬくぞオッノ……と、これは、今はやりの「センシビリティ・トレーニング」アメリカの経済学の先生が発明した、現代ビジネスマンの、ストレスを解消し、いわば、自己催眠による勇気と自信とバイタリテイを生み出す訓練だ。さ、お前から

やってみろ!

こぶん1 (てれくさそうに、棒を眺めたりしている)

おやぶん さ、やってみろ。

こぶん1 (しかたなく、地面を叩き出す) コ……コ……根性だ根性だ。(木魚のリズムになる)……ナムダイシ(ヘンジョーコンジョーダ……ギャーテーギャーテーハハラーギャーテー、ハラソワギャーテーヘンニヤハラーミーダー)

おやぶん 馬ア鹿ノ(棍棒をとりあげる)誰がお経をあげるといった。……よし、次、腹の底から声を出して、元気にやれよ!

こぶん2 ハイッノ(元気がよく叩き出す)さアさア買ってらっしゃい、見てらっしゃいひとふさ、たったの百円だ……安い安いよ台湾バナナの大安売り……

おやぶん 馬鹿者ッノ次だ次だ……いいか、お前はわしが特別に眼をかけている社員だしっかりやれよ!

こぶん3 ハイッノ(深呼吸して)根性だ根性だ。

おやぶん そうそう、その調子ノ

こぶん3 コンジョウだ何ジョウだ。ボクのアパート三疊だ。おまけに便ジョも共同だ

おやぶんの家はマンションだ。八畳八畳六畳キッチン、おまけに便所は水洗だ。

おやぶん 馬鹿者ノなんてこというんだ、お前は。便ジョじゃない、根性だ。「私は、誰にも負けない根性をもって、企業競争を勝ちぬくぞオ!!」さ、いつてみる。

こぶん3 私は、誰にも負けない根性をもつて……

おやぶん そうノ大きい声で……

こぶん3 階級斗争を勝ちぬくぞオ!!

おやぶん ナニ?

こぶん3 勝ちぬくぞオ!! がんはろう!!

みんな //突きあげる空に……

おやぶん ダマレノダマレノダマレ!! シャラッ!!

みんな (静まる。気味悪るそうに……)

おやぶん ……シャラッ。オウ、オウ、オウ、オウ、クワイニトノニュー・ノー? ハムハム オケイ……(ぱったり倒れる)

こぶん1 おやぶん、おやぶん……変だよ、こりや、シンシンしちゃったよ、どうなっちゃったんだらう。

こぶん2 こりや、あれだな。おやぶんたらあんまり、アメリカの経営学にこりすぎて頭へんになったんじゃないか? テンカンの

一種だな、こりや。

こぶん3 おやぶん、おやぶん、しっかりしてくださいよ。ベトナム解放軍が攻めて来ますよ。

おやぶん うノノノ(びっくりして起き上る)な、な、なんだ? お前たち何かいったか?

こぶん3 いえいえ、なにも……

おやぶん そうか? そうだ、お前は社員教育をやってるんだった。……どうも、なんだが頭がボーヤとしてるな、そうだと、ここでブレイン・ストーミングをやって、頭をスツキリさせよう。

こぶん1 なんです、おやぶん。そのブレイン……なんとかつてのは?

おやぶん ブレイン・ストーミング。つまり社員のアイデアの開発だ。おい、ヤロイドモ……いや、社員諸君。独想的なアイデアを出してくれたまえ。

こぶん2 なんだか、変な具合だな。

こぶん1 おやぶん、その、チームは……

おやぶん うん、チームは……そうだな、本質的なテーマで行こう。「棍棒とは何か」……いや、それより、こういうのがいいな

『新しい棍棒像』これでいこう。

こぶん1 ハイノ!

おやぶん よし、言ってみろ。

こぶん1 新しい棍棒像。それは、おれたちのような、アキスヤスリの、コンドロではないノ

おやぶん うん、自己否定の精神だな、よろしい。それから?

こぶん2 新しい棍棒。それは、三億円犯人でもないノ

おやぶん そうだ。三億円なんて小さい小さい。でっかいこころ。

こぶん3 新しい棍棒。棍棒中の大棍棒、それは、自衛隊に機動隊、税金棍棒だ!!

おやぶん そうだノ自衛隊や機動隊は、今やわれわれの同業だ!! だけど、税金を盗むなんて、まったくしたくないウデだなア……ノ

こぶん1 おやぶんおやぶん。感心してちゃいけませんよ。

おやぶん そうだ、感心してちゃいけない。もつとウツ手がいるんだもんな。

こぶん2 もつとウツ手? ……いったい何を盗もうって奴です?

おやぶん 日本をマルごとな。日本をマルごと盗んじやおうってんだ。

みんなへええ。

えぶん3 日本なんて大っきなもの盗んで、

いったいそいつをどうするんです?

おやぶん 売りとばすんだよ。アメリカへ。

こぶん3 へええ、アメリカが、いくらで買ってくれるんです?

おやぶん そりや分らねえ。向うさんの言い値さ。アメリカさんが十円っていやア十円五円っていやア五円。何しろ盗んだもんだ弱みをにぎられてちゃ仕方ねえや。

こぶん3 なアんだ、つまんない。

おやぶん つまんなかね!! これでまだまだ軍備を増強し、大人しく働く安い労働者をうんと作れば、日本は高く売れる。(巻紙をとりだす)……ほら、見ろ、これだ。これがアメリカさんとの日本国売買契約の写しだ。日米安保条約!! ……お前たち、この中身を知ってるか? ……知るまい。日米安保保障条約、略して安保。これからお前たちは、社員教育の一環としてこの安保について学習する。ゲームによる情報の整理だ簡単な台本と筋書を見せるから、お前たちは芝居をする。ビジネスマンには演技力も必要だ。さらにこのゲームは、社員の独想性、感受性の開発に大いに役立つ。……いか、筋書はわかったな。準備はいいな。用意……スタートノ!

音楽——風呂敷包みからカツラなどとり出し、かんとんに扮装した、こぶん1と2。カブキ風にキが入る。

こぶん1 おい、おサト。

こぶん2 あい。

こぶん1 拙者の刀が血に飢えて、また侵略してくれとせがんでおるわ……お、いてて……

こぶん2 あれ、どうしちゃんだぞいなア?

こぶん1 なアに、ベトナムにやられた傷がいたみおる。

こぶん2 おやまあ、おいたわしやトホホ

こぶん1 ベトナムではそちにも色々世話になったが、失敗であった。なあに今にみておれ、アジアのアカども皆ごろしだ。おサト、そちも一緒にたのんだぞ。

こぶん2 あい。恋しいアメ様のためならばたとえ火の中、水の底。……なんのいといはせぬわいなア。

こぶん1 おサトノ!

こぶん2 アメ様ノ!

こぶん1 ……芸者のそちを身請けして十年来年は身請けの証文の、アンボの期限がいちおう来るが、まさか、そなた、証文を返

せとはいらいまいのう。

ごぶん2 なんのなんの、自動延長で結構でありんす。

ごぶん1 かたじけない。ところでおサト、これをそなたに、あずけておくぞ……

ごぶん2 あい。あれ、これはエンブラ……これはボラリス……

ごぶん1 うむ。事前協議は空文だぞ。

ごぶん2 あい。

ごぶん1 さ。次なる侵略に出かけるか。

ごぶん2 あノアノア様ノ雨が……

ごぶん1 うははは(傘をひろげ)核のカサじゃ……濡れずに行こうノ!

拍子木と音楽。

おやぶん うん。よくできたよ。お前の台本は……

ごぶん3 いえ、おやぶん。私しや台本はいりません。え、簡単な奴を、私の創作で。相手役はおやぶんで結構です。あ、これ冠って、これ持って、エンコして下さい。いいですね。

おやぶん、ベビー帽、オモチャを持た

せられて座る。ごぶん3、アネさんかぶり、ニブロン姿で、ハタキ、ホーキをもつ。

ごぶん3 アーラアラアラ、坊や、おいたち

ちゃんして、メエですよ。アラアラ、いっば

いちらかしちゃって、ママがハキハキしま

すからね。汚ないアンボでよごしちゃって

……。アンボちゃん、ハキハキしまちよう

ね。キチもバイバイしましよ。アンボ

ハキハキ、キチ、バイバイ……そおらき

れいになった。みんなバイバイしましたよ

。帝國主義ちゃん、バイバイ!!ホーラ坊や

きれいになってキモチいいでしょ。ウーン

ブブブ……チュッ!!

おやぶん ベツベツノなな、なにすんだよ、お前は……え?なにがキレイになつたでチ

だ。不潔だよお前は……。第一なんだ。アンボ、ハキハキ、キチ、バイバイつての

は……

ごぶん3 すみません。

おやぶん すみませんじゃないよ。お前は罰

だ。もう一べん、これやれノ(と棍棒)

ごぶん3 へい。

おやぶん お前のような奴をな。核アレルギ

一症つてんだ。核アレルギをブツとばせ

いいかノ……原爆はコワくないノ水爆はコ

ワくないノ私は男だ、戦争が好きだノ安保

も好きだ!!……やってみろ。

ごぶん3 へい。(激しく叫んで)原爆は怖

いノ水爆は怖いノ広島の間人はみんな知っ

てているノ日本人はみんな、腹の底から原水

爆を憎む。落した奴を憎むノアメリカは侵

略をやめろノアメリカは日本から、アジア

から出ていけ!!

おやぶん オウ……ノ……モレツ……今日

の社員教育、これでジ・エンドね。おしまいにみんな、社歌を唄って……バイバイ……(失神する)

(世界の国から今日は——のふして)

さようなら さようなら

さようなら さようなら

さようなら さようなら

さようなら さようなら

さようなら さようなら

さようなら さようなら

さようなら さようなら

さようなら さようなら

さようなら さようなら

さようなら さようなら

さようなら さようなら

さようなら さようなら

さようなら さようなら

さようなら さようなら

さようなら さようなら

さようなら さようなら

さようなら さようなら

さようなら さようなら

さようなら さようなら

さようなら さようなら

さようなら さようなら

さようなら さようなら

さようなら さようなら

さようなら さようなら

さようなら さようなら

# 通話停止執行

長谷川伸二

舞台、暗いなかから、電話のベル。つぎの人達の話をバックに、矢つぎ早く浮びあがる。(一勢に出てよい)

商店の親父。法律事務所弁理士。それぞれ恰好の感じ。舞台奥、自衛官二人対置し糸電話で最後まで話している。(会話だけでもよい)

課長、舞台奥に浮び出る。ゆっくりと白手袋をはめ、手を下し合図。

それぞれ的人物に対応していた電話機(箱状置台の陰から)から職員A、Bの声

A、B 通話停止執行!!(叫ぶ)切断!!

通話が遮断され、B Gの会話を残してストップモーシヨン。課長消える。テープの声。

テープ 局ですが、おかけになった電話は公社との契約不履行のため止っております。二回繰返す。暗くなり舞台転換ののち明るくなる。

電話局の営業窓口態となっている。激昂している弁理士。

商店主 (手に紙切れをもっている) ああの。料金滞納で止まったんですが……

A あっち!!

商店主 ハイ、済みません。集金が月末だったのでなんとかそれまで……。(キョロキョロする)

A お宅一軒じゃないんです。均等にサービスを提供しております。係がちがいます。

課長 滞納には通話停止執行がサービスです。使えなかつたら料金も低し払い安いでしょ。

商店主 ——それも道理やな、——そやけど販売にならんがな。(窓口へ行き、10円銅貨を10枚数えている)

B こっちも販売にならんがなそんな金じゃ!!(ボンボン領取していく)

商店主 ああ——、この料金間違いおまへんか?

B さぎだとおっしゃるんですか!!若情ならそっち!!

商店主 うち、通話回数を控えてますのや、決して7円が高い役所がさぎなどなる訳が——前月とくらべて——。

B 高いわけがあります。基本料を値上げしていますよ。苦情ならそっち!!(Aへ)

課長 君、君、よく説明して、——値上げした方は国民の皆さんへお返しするのが公社です。御不審な点はこの公衆電気通信法第

×条○項の細則、運用規程の第△条×項(3)の、つまり、異議申請を……、文書でもつて……。

商店主 まけてくれまつか?値上げはするわ、電話は止めるわ、無茶苦茶や。

A いや感服。参りました。弁理士さんだけのことはある。理論通りいくと軍事通信網の設備拡大、基本料の値上げ、通話停止が

非国民たるかを説明できなかった私は首になつて然るべきだとおっしゃるので——。

弁理士 そう、通信公社の企業防衛論は国家の安全保障の要だ。その程度じゃ電話の死刑執行はむりだな。ただちに解除したまえ!!

A 死刑執行解除!!いや通話停止解除!!

弁理士 ハハハ(嗤笑する)

課長 料金を納入しないのに(Aへ)君、そんなことができるか?取消、取消!!インテ

キ弁理士に論破されるようじゃ窓口不適格だ。小口滞納常習者だからいいようなもの危い危い。——君の目標は撃退方法じゃなかったのか。

**A** 六法、部内法、とりたて推進法の習得であります。他のお客様に迷惑ですから離れて下さい。

**課長** そんなことじゃ大口利用者からはなおのこと金はとれんぞ。公共事業は一部の人の利益を考えちゃいかん。

商店主、うなだれて座り込む。

**B** (虎造節で) 大口といやなんてたって①に防衛、②は外務、③はやっぱり大蔵官庁が大口でさ。奴さん全国の軍事通信基地、朝鮮、沖縄、フィリピン、南ベトナム、タイのアムさんにベッタリだからな。③の大蔵、こら金もつてるぞ。税金をとるため税金を使う。文句のつけようがねえや。……郵政、電力、など、まず駄目だな、借貸で帳消が多いや……。利用者から確実にとるとなりや電話をとめなきや。

**課長** 君、仕事のかげ声が違うぞ。

**B** いらっしやい、いらっしやい、すきなとさすきなだけ、妨害なく、定(低)額料金で話せる電話をどうぞ。沖縄、ベトナムへは軍事通信で塞がっているがアメリカなら直通ですよ。

**課長** どんどん売って、稼ぐ稼ぐ。払わなきや電話をとめて世界の果てから今日は、エソコロサの通信衛星にのせ隔から隔までずず——と通信網を張りめぐらさなきや。

**A** もしもしこちら電話局、B52の爆弾投下指令室でしょうか。一九六〇年から10年間大口滞納してます。電話がとまりますよ。

**課長** 君、君、その人はいいなだ、ここの日本人の悪質滞納地域の分布図を作成しとればよろしい。

**A** つまりこの赤いところが解放地区で——

**課長** 解放じゃなく滞納だ。日本は侵略も、革命もされとらん。解放なんてナンセンスだ。そこはベトナムだ。

**A** 滞納常習地域、電話機数一、二〇〇ヶ、世帯数三八〇〇、女八〇〇四人、男四二一六人、電柱一五〇本、平均料金三五〇〇、範囲、東喫茶シロ、西風呂屋角軒下タコ焼屋、南公園ベンチ横一〇番用、北、北カシ自機上々の麻雀屋まで……。シロ全共斗2人、麻雀や右翼予備軍5人……。常に不穏分子公園に出没。

**課長** よろしい。公安局や警察資料と使用目的がちがえば滞納者一掃資料として申分ない。(Bに)とったり値上げを急いではいかん。電話の価値を高めるイメージアップだよ。えらっしやい、らっしやいは即売りの根性だ、今や日本国中、いや世界と通話

できる。17万円の魅力をつくることだ。  
商店主 ベトナムやアメリカに親類も取引もおまへん。死ぬまでかけることもないようなとこへ金は払えまへん。

**課長** 電話はとまったままです。  
**課長** どこへ行くんだ。無断離席は勤労意欲ないものとみて賞与で査定するぞ。

**B** 止むを得ません。生理的現象です。  
**課長** 先月は五〇〇毎だったのに今月は二〇〇枚、早過ぎやしないか？ 水気の多い味噌汁の摂りすぎだ。

**A** 私は朝食抜きであります。労働者の潜在的サポータージエ。マダレガーの「行動の科学」、労働者は本質的に労働嫌否するものではない。やる気が稀薄です。

**B** (BGを指し) 何が彼女を説かせているのか、いつまで続くか。質でなく量の問題。やる気がなくても手や口は生理的に動く、労働もリズムにのることです。

**課長** まさに君は公社好みの職員で個性豊かな。労働はムリ、ムラ、ムダを無くすことだ。(Bに)君の生理現象は君自身のリズム訓練によって是正されるものと君達同僚の中で結論づけられた。君の目標管理をそこにおき給え。

**B** 月税込四万円の僕が月収二億円の窓口作業をしますと5千円約四二〇年。せめて10年約五〇〇万円に一回ぐらい認めて下さい

**課長** 窓口失格だ。電話販売の外勤に廻りたまえ。(Aに)君の理論が証明されることだ。サービスの向上を考え、君独自の仕事の能率をあげる意見を聞きたいね。

**A** 簡単です。通話停止執行を止めることですよ。

**課長** なに!! そうか君のいう通りだ。

**B** 通話停止執行解除!!

商店主連喚声をあげる。

**課長** 馬鹿なことを言うな!! 執行、執行!! 私共は実行不命令服従であります。職員を煽動し、そそのかしたので君は休職処分にする。

**B**、BOXにカタンとかくれる。

加算機の音、A捺印のリズムが早くなりかけもちするが机(BOX)を合せてしま。疲勞激しく座り込む。B外勤服、胸に大きな社章。Aの肩をポンと叩いて去る。

**課長** (Aをだき起し仕事につかせる。Bに) 積極的なセールスこそ明日の電話事業を支えるものだ。局長代行として品行正しく販売優秀たらんことを期待するぞ!!

ファンファーレ鳴り渡る(マーチでもよい)

**課長** いらっしやいませ。(Aを放り出し)

アメリカ様登場し通り抜け、自衛官の通話に参加。(旗だけでもよい) 課長、その道具(糸電話)を取付け後姿に最敬礼する。

アメリカ、自衛官のみ残して暗くなる。  
課長浮びあがる。

**課長** わが公社は昭和二八年以後7円の通話料を一銭たりとも値上げ致しておりません。電話は黒字、電報は赤字、つまりトン

トン財政でサービスの向上を計っておりません。ほう大な設備資金が必要であり、そこで——

**B** 利用者の犠牲性において。(音だけ出す)

**課長** 国民のための国民の通信のため基本料と工事費を値上げしました。公衆電話は3分で切断します。切断!! その変り市外通話の時分がある区域のみ10秒延長し利用者に還元することになりました。

**B** アノー今月の電話料収入2千万円約8%の増収となっていますが。

**課長** 収支トントンというのです。新幹線以上の超特急を走らせる設備を値上げによってやるようなふやけた根性はもっておりません。公衆電話の3分打ち切りも国民の強い要望であり、滞納者には通話停止をもって対抗します。

**B** 通話停止執行件数が倍になりました。(青息吐息)

**課長** 公共料金の値上げを押さえるのは政府公社の大方針であり、職員の努力によって収入の確保とサービスの向上を計らねばなりません。

商店主 なんてこない高いのか解ったで!! 勝手に上げて。

**A** 値上げも、間違いありません。基本料が一〇〇〇円から一三〇〇円になっただけです。値上げとはいいません。

商店主 値上げ。だが、どこで、いつそんなことを決めた。許さだぞ。

**課長** 国民代表の議員が国会で承認し、官報に公布されています。

商店主 官報かロケット砲か知らんがそんな国会はおれのためにあらへん。ハイそうですかと払えますか!! いや私は払う言うてまんねん。一〇〇〇円やけど、とってくれまへんねん。

弁理士 基本料や工事費を2割も上げるといふことはだ、独占事業の横暴もはなはだしい。しかもわしらは料金を払わんとはいっておらん。一〇〇〇円じゃとれんというのか!! 通信を無断で止めるのは、憲法第×条〇項に言論、思想、信条、報道信書秘密の自由を侵害するものだ。契約不履行で止っています!! 社会的信用の失ツイ、名譽棄

損で告訴する。

課長 公衆電通法第〇〇条△項に則して停止しました。国会の承認はあなたの承認と理解し、法的手続きは完全になされていきます。

弁理士 わしは弁理士じゃ、君では話にならん、局長を呼べ!! 総裁を呼べ!!

課長 私の理論に誤りがあれば指摘して下さい。私はプライドを持って仕事しています。自信をもってお答え致します。

弁理士 君達の企業防衛論は国民をぶじよくするものだ。

課長 国家防衛論です。通信設備は月と交信するためのものです。一旦緊急あれば自衛隊、警察、アメリカ極東軍は北海道から九州まで、15秒で警戒司令が伝達されるよう設備しなければなりません。

B そのおこぼれが市外自動即時通話ですよ。

課長 ゴチャゴチャとうるさい。君は首だぞ!!

商店主 そんな通話料払ってんのかいな。殺生や。勝手に止めて商売上ったりは自分のせいや言うのかいな。

B 払うのか、払わんのか。アメリカ軍のようにお宅とは相互援助協定はないんやで!!

課長 君達お客様に対して乱暴な応待はいけません。(Bに)君は暴言、信用の失ツイ

いと思います。  
課長 国家事業発展、公共福祉増進、極東軍事通信網完成による国家安泰を祝し、より一層の収益を確保するため内では要員の合理化で職員を首にしました。更に通話停止執行の徹底により増収を図ります。

手袋をはめ合図する。無言。キョロキョロするが誰れもないので。

課長 通話停止執行。切断!!

アメリカ、自衛官話し続けている。その後姿を見て——。

課長 通話停止執行。強行切断!!

A、B (立上り)軍事通信線の切断完了。商店主ら 安保条約切断完了。

アメリカ、自衛官の通話が切れ混乱する。(切断は洗濯、サミ等でよい)

課長、ガクンと落ちる。  
ティーブ、ハッキリと、  
ティーブ 局ですが、おかけになった電話は日本人と契約期限切れのため止っております。(二回繰返す)

で滅給処理する。失礼致しました。何分あの(アメリカ)方の大口料金が納入されませんので小口の皆さん方が協力して、納めて下さるといいんですが——。勿論延滞料も頂だいしません。

弁理士 だまって聞いてりやつけ上りやがって、オイ三品!! お前でおトシマエがつかないや総裁どうしてやってもらおうか。

課長 総裁と申しますと?

弁理士 黒佐藤総裁が会社の大親分さ。

課長 どうぞどうぞこちらへ。(Bにささやく)

B ○○○○番執行解除!!  
弁理士 意気隔々と引き上げる。

全員 ありがとうございます。  
B ○○組××番納金一〇〇円也。

課長 シイ!! 声が高い。  
商店主 許さばりや。あんた達それでもサービス向上を口にする公社の労働者か。あんたらもドルになって値上げした同じ穴のムジナや。大口滞納者の肩替りはごめんや。第一日本の端から端まで結ぶ必要はわてらにおまへん。

弁理士 お宅は必要ないが警察や自衛は必要。エツサコラサはアメリカが必要でしょう。敵を一早く迎撃する指令を伝えるのは通信線、それに協力しないのは非国民だ。

### 第10回ゼミ8月の京都で!

一月一日、岐阜市でひらかれた東西両演合同運営委員会は、きょ年から懸案であった「第一〇回演劇ゼミナールを東西合同でやる」ということを、全員一致で決定しました。

● 第一〇回演劇ゼミナール  
主催 東・西両演  
日時 八月二二日(土)―二三日(日)  
会場 京都市

演劇ゼミナールは、一九六一年劇団静芸と京浜協同劇団の交流会に端を発し、きょ年熱海での第九回ゼミには、集団一六七名の仲間が結果し、活動の発展をめざして討論をかさねました。

いままでのゼミナールへも多くの西日本の仲間が参加していますが、今年には東西合同で「七〇演劇行動」がおこされるので、その総括を全国の仲間が一堂に会してやり、大きい統一の中から七〇年代へのスタートをきろうと、合同にきめたわけです。

第九回ゼミできめた、熱海の会場を京都に

A 世界の人間が心と心で話し合う前に血で血を流すためです。  
課長 ストップ、君は日本の公社、国民としてふさわしくないのので解雇します。

商店主 心と心で話そうとしたら首かいたな。つまりアメリカの滞納料金をようたらあんたらは首や。その前に電話を止めなあきまへんな。公社さん。

A アメリカ軍事回線の通話停止執行!!  
課長 とんでもない。それは安保条約で国民の負担になっております。

B 課長それはおかしいです。契約は平等であるべきです。金はとらん、電話は止めない。電話局は国民をだましたことになりました。

課長 そんなことはわかっとる。君は公社をヒボウし、収納を妨害したので処分だ!!

商店主 ストいうたら労働者がするもんや。ストしようにもストする労働者の姿が見えん。こうなったら料金不払いで対抗しようじゃないか。(座り込む)窓口を封鎖しよう!!

課長 (窓口に机をたてる) 料金は銀行振込みでどうぞ。

課長 収納成績はグングン昇っています。公社の事業収益は2倍になりました。局長御策おめでとうございます。部下は私一名ですが粉骨砕心、期待される人間になります。

うつすのは、東の仲間には申訳けないので、来年以降独自に開催する西の仲間になるべくたくさん参加してもらい、激励する意味で譲承してください。

ご承知のように、安保廃棄のたたいのもりあがりをおそれる政府与党が、国民の目をそらすためにひらく「万博」の、時期的にも地域的にもまったなかで、第一〇回演劇ゼミナールはひらかれます。西の参加は増えたけれど、それだけ東が減ったというのでなく、全日本の壮大なタイトルにふさわしい結果をやりとげ、集団も個人も大きい収獲を得たいものです。

「こういうゼミにしてほしい」要求を、東西の事務局へドンドンシカせてください。また、経費もかかるので劇団ごとに話合って、全員で積立もはじめてください。  
「七〇演劇行動」を成功させ、元氣いっぱい顔を京都であわせましょう!

# ひろしま 1969

詩 構成  
 峠 深川 三吉  
 名 土屋 宗俊  
 屋 越 清操  
 宗 俊 清 操

(劇団月曜会)

音楽の序曲。  
 ホリゾン트는夜明けの蒼灰色に染まっている。舞台上手寄りに様々のポーズをとった被爆者の群像。下手に男1、女1が立っている。人物はすべてシルエット。音楽がBGとなって、下手の男女にライDがあたる。

男1 (高らかによびかける調子で) 暗闇の中で、長い時をすごした者たちが、夜明けに向ってどんな表情をするだろうか。  
 女1 焼けただれた原爆ドームに朝がやってくる。夏草は、すでに草の匂いを放ち、廃虚の朝は円頂の錆びた鉄骨が告げる。果てはなれる野鳩や雀たち。朝のうたごえは鉄骨から私の中へ降ってくる。  
 男1、女1のライト消える。男女退場。

## 合唱隊 (歌詞) — 峠三吉作・村中好種曲

「人間をかえせ」  
 ちをかえせ はをかえせ  
 としよりをかえせ こどもをかえせ  
 わたしをかえせ  
 わたしにつながら にんげんをかえせ  
 にんげんの にんげんのよのあるかぎり  
 くずれぬいわを  
 へいわをかえせ

2  
 被爆者の群れ消える。八月六日の午前八時十五分を告げるサイレンと平和の鐘の音が聞えてくる。ひとりの老婆が、花をもって下手から登場。そまつな墓標の前にぬかずく。老婆はシルエット。鐘の音にWって、こどもたちの声が交錯して聞えてくる。

こどもの声 (テープで)  
 男の子 六日の朝、みんなでおぜんをとり  
 まいて草だんごを食べようとする  
 女の子 お母さんは大きなおなかで赤ちゃ  
 んが産まれそうでした。私は台所で  
 なすびを洗っていました。

別の女の子 私は茶の間で、いり大豆を食べ  
 ていました。「ピカリ」うすく光つ  
 た。おかあさんは夢中でわたしを

別の男の子 板と板の中に、弟ははさまって  
 ……水、水といったが、僕は崩れて  
 いる家の中に入るのはいやとい  
 った。弟はだまってそのまま死んだ。  
 あるとき僕は水をくんでやれば……

別の女の子 よしこちゃんが、やけどで寝て  
 いて、トマトが食べたいというので  
 お母ちゃんが買い出しに行っている  
 間に、よしこちゃんは死んだ。いも  
 ばっかしたべさせて、ころしちやっ

たネ、と、お母ちゃんは泣いた。み  
 んなも泣いた。

こどもの声の途中から、シルエットの老婆の顔にライトがあたり、その光の輪が身体全体にひろがる。  
 こどもの声が切れると、急に鐘の音が大きく響き、すぐにまた遠のく。老婆は身ぶるいして立ち上る。

老婆 わごいことよノ戦争さえなけりや、ピカさえ落ちにやのう、わしも今頃大勢の孫たちに囲まれて……  
 まっこと、ええとこじやった、ひろしまは。川がよりけあって水はきれいに澄んどって……住吉さんの川祭り、盆踊り、とうろう流し……

笛、太鼓の音、こどもたちの「いのこ祭り」のはやし声が続くから聞えてくる。  
 //いのこ、いのこ、いのこもちついで  
 繁盛せえ繁盛せえ

老婆 ほらノおいでおいで、こどもたち、いのこさんがやってくるでノ  
 老婆、下手に退場すると、入れかわりにこども数人同じく下手からかけ出してくる。と、舞台全体が一時に明るくなり、上手から、ハッピー姿のこどもたち十人が

かん声をあげて走りだしてきて、俵もみの位置につく。祭りばやしの効果音はここまでつく。

こどもが俵もみの位置につくと、「きやり歌」がはじまり、上手寄りの部分でもみ俵ねりはじめる。  
 きやり歌と入れ替りに、ひき太鼓、笛、上手より登場、はやしとともに俵もみは中央から下手へとねって退場。

俵もみの移動とWって、上手より、こども十五人のいのこもつきが登場、舞台上手寄りでもちつき、つづいて下手寄りに移動してもちつき。  
 下手から、いのこを眺めにでてくる浴衣姿の男女数名。

いのこのこども、ひき太鼓、笛はにぎやかに下手へ退場。  
 テープで盆踊り歌が流れてくる。下手より十数名の踊り手が出てきて、輪をつくって踊りはじめる。上手より二十名ばかりの踊り手がかけ出てきて、同じく踊りはじめる。見物の男女も中央山台上で踊りはじめる。この間に、舞台中央にすえられた太鼓を中心に、はやしかた登場、はやしはテープから、生の歌い手たちとうつついていく。既にあたりはとつぷりと日が暮れて、祭礼ちようちんにも

灯が入り、美しい川岸の夜景である。

3  
 上、下手二つの踊り手の円陣が交錯して、盆踊りが頂点に達すると、舞台のあかり一時に消える。歌、ハヤシもブツンと切れる。

ピカッと閃光。  
 化石となった踊り手の姿が瞬間浮びあがってすぐに消える。

暗闇のままますますましい核爆発の音、長い余韻をひかせて。踊り手たち、全員退場。その余韻のつづくなかで、ホリゾンに巨大な原子雲。  
 爆風の音とも人間の悲鳴ともつかぬ音が耳を掩うほどの迫力に高まる——ホリゾンといっばいにトルーマン大統領のスピーチ、同時に英語と重なって次の声が重くのしかかるように響いてくる。

声 (テープで) 第二次大戦で、日本人に対し原子爆弾を使用したのは、米軍の日本上陸をさけるためであった。この上陸が行なわれていたら、二十万人の米国人の生命が犠牲になったことであろう。私は、これら米国の青年、及び日本軍兵士の生命を救う最上の方法は、原子爆弾を投下して戦争を終らせることだと決心し、これを実行に移した。私はやむを得ない場合、再び同様の

措置をとるであらう。

「私はやむを得ない場合……」からあとの部分がくり返しひびいて遠のく。衝撃的な楽器の音。スライド消える。

4

ライト、下手寄りの男2、中央よりやや上手寄りの男3をつづけざまに鋭くとらえる。

男2 原爆投下/次なる核戦争に備えての残酷無比な生体実験/

男3 そうだ、そしてその生体実験は、被爆者を三世代にわたって追跡し、今なおおしつようにつづけている。

ABC C……原爆傷害調査委員会。日本厚生省との共同研究機関を装いつつ、ヒロシマ、ナガサキに送りこまれた、アメリカ核戦略体制の謀略の果/

男2、3、消える。

女2、ABC Cの医師、少しはなれて死亡情報連絡員の三人が立っている。

女2 夫の遺体を返して下さい。そりゃ一度は承知しました。でも私は原爆病院で解剖なさるとばかり……こんなところで、日本人でもないお医者さんに。返して下さい。

医師 だから奥さん、原爆病院だろうと、大

学病院だろうと、ABC Cだろうと、解剖

係員が御遺族を訪問する……

女2 白血病で死んだんです、夫は。原爆でだのこの上アメリカ人の手でメスをつき

女2 ヒキキです。あんな人をよこして、厚生省のお役人だとばかり思っていたら、ABC Cの死体あつめ専門の人だったんです。

医師 誤解です。世間みんなが誤解なさって

医師 いや、だからなんども御説明申しあげ

る。アメリカがやるんじゃない。アメリカの研究機関じゃないんです。ABC Cは、厚生省の国立予防衛生研究所、医師会、大医学部病理学教室、原爆病院、広大原爆放射能医学研究所、赤十字病院、これだけが協議して、合意の上で、日米共同で被爆者の健康の永久追跡調査を。亡くなられたかたの尊いおからだを、世界の平和のために、人類の進歩のために提供して頂こうと。

連絡員 死亡情報連絡員。私たちのことをみんながそう呼ぶ。二十四時間交替待機。死亡者の名簿と、日程表とくびき。一体について六十円の奨励金つきで、遺体解剖説得の競争にかりだされる毎日。

女2 考えただけでゾッとするワ。息をひきとって三十分もしないうちに、人の死体をかぎつけてくるなんて。

医師 ネ。ABC Cの調査はですよ。サンプルPE86といつて、胎内被爆児の追跡調査、ME200といつて、被爆者成人健康調査、それに、ST1000という死亡調査解剖。

医師 そりゃ、死亡調査の方法だってABC Cだけでやってるんじゃないからですよ、民生委員から新聞社、市役所の戸籍課、警察、葬儀社、火葬場、みんな御協力願って被爆者に限らず、広島市民誰でも御不幸があれば直ちにABC Cの死亡通報センターに連絡下さることになってるんです。そこで私たちの調査対象者名簿と照合して、

女2 返して下さい。夫の遺体を返して下さい。

女2 返して下さい。夫の遺体を返して下さい。

打楽器の音、三人とも消える。

5

暗闇の中で、「平和を守れ」のうたごえがテープで流れてくる。

うたごえに重なって怒涛のような群衆の声

群衆の声 (テープで) ABC Cを即時撤去せよ/ヤンキー・ゴートーム/

うたごえと、群衆の声がつつく間に、下手に十数名のABC C撤去デモ隊、中央に国鉄労働者、上手に漁民それぞれ同じく十数名登場し、位置につく。

うたごえ、一段と高まって、BGとなる

と、下手ABC C撤去デモ隊にライト。デモ隊は、老人、老婆、高校生、労働者インテリ、学生、看護婦と、様々な扮装をしており、「ABC C撤去せよ」のタスキ姿。ひとりの老人は胸に息子の遺影を抱いている。後部に三本のプラカール。

男2 一九六五年九月十二日。最初のデモ隊

が比治山の上のABC Cをとりまいた。

女2 これ以上、被爆者がモルモット扱いはされるのを、もう私たちに黙っておきな

老婆 そうじゃ、被爆者はみんな団結しよう/

少女 私の身体を、ハダカにして調べたABC C/

老人 息子の内臓を、アメリカ本土へ盗み去ったABC C/

男2 死体解剖の標本をかえせ/

男3 ABC Cの資料を公開し、被爆者の治療に役立てよ/

テープの「平和を守れ」のうたごえ高まる。

男2 ABC Cを即時撤去せよ/

全員 ABC Cを即時撤去せよ/

群衆の声 撤去せよ/撤去せよ/撤去せよ/

下手の全員消える。

6

舟のエンジン・波の音、上手漁民の一派にライトがあたる漁民の扮装をし、魚かごを下げ、手かぎをもち、大漁旗をもち等。

男4 米軍弾薬庫の荷揚げ場つくるのに邪魔じゃから、わしらのカキ筏をのけるといつてきた。

男5 みてくれ、このかごを/からっぽのかご/

連絡員 サンプルST 1000/人間標本/

女2 (ひとときを強く) 返して下さい。夫の遺体を/

医師 だから、おたくの御主人の場合は、このサンプルST1000の対象という訳なんです。

連絡員 乱雑に縫いあわされた解剖後の遺体に、布をつめ、布をかませ、ともかくも人間の形にととのえて、遺族にお返しする。ここまですぐ私の仕事だ。血への流れをふいた手……。消毒もそこそこに家路に急ぐ私。やっと人間らしい気持ちにかえて、私の幼いことを抱きしめようとする瞬間、私は思わずこの手をハッとしてみる。日本人として、私は……

医師 日本人として私たちも、被爆者のために一生懸命やってみようなんです。この研究は、被爆者と非被爆者から成る七万五千人の広島市内のサンプルST1000人口集団を対象に。

連絡員 サンプルST 1000/人間標本/

女2 (ひとときを強く) 返して下さい。夫の遺体を/





「演劇会議」既刊号 目録

第八号(一九六八年六月) 品切

なかまの素顔 若尾隆子さん(名演集)  
東西演劇作会議特集  
(山村金平・黒沢参吉・萩坂桃彦)

劇団いこらの活動 栗原省  
劇評

「群上の立百姓」(新劇場) 桂 恵美  
「でっちあげ」(京芸) 仲 武司・岡崎芳三

「おふくろの歌」(京浜) 河田良二  
「ワッサ・ジェレンズノワ」(民芸) 萩坂桃彦

「おりん口伝」(弘前) 黒沢参吉  
西演劇総会をふりかえって 土屋 清

第九号(一九六八年九月)

なかまの素顔 前崎圭以子さん  
(福岡現代劇場)  
京浜協同劇団と京浜演劇の座談会

劇評  
「初恋」(土の会) 外 萩坂桃彦  
「島」(名演集) 黒沢参吉

「イルターパック物語」(木々の会) 小林芳吉  
「ブスコフトリの伝記」(四紀会)

「雪崩」の創造体験  
戯曲 九〇〇一列車接近 島 源三

第十号(一九六八年十二月)

なかまの素顔 松岡信子さん(群馬中芸)  
東西演劇総会、セミナー特集  
黒沢参吉・土屋 清

劇評  
「蟹工船」(東京芸術座) 萩坂桃彦  
「回転軸」(東京芸術座) 荒井敬亮

世界青年学生平和友好祭 川崎ひろし  
「はぐるま」と交流して 土の会

「雪崩」創作の動機 下戸明夫  
戯曲 テントからの報告 岡崎 繁

第十一号(一九六九年四月)

なかまの素顔 品川登代子さん(人形京芸)  
複雑な文化状況と十五年  
こばやし・ひろし

自立劇団への前提 関きよし  
北海道演劇集団での発言 黒沢参吉

劇評  
「日本の教育」(未来) 「メコンデルタ」  
(南大阪演研) くらだ・いさお

「息吹新喜劇」をつくろう 坂本善八郎  
「つくられた英雄」(はぐるま) 伍藤和義  
「コンペア野郎」(京浜) 萩坂桃彦

仲 武司  
藤沢 薫  
島 源三

土屋 清  
赤松比洋子

第十二号(一九六九年七月)

なかまの素顔 三上和子さん(弘前)  
働くものの演劇をめぐる  
東演劇オグ学校座談会  
関きよし

劇評  
「おれは雷」(埼玉) 田中久文  
「分裂氣質」(青年劇場) 外 萩坂桃彦

「のんだくれ」(いこら) 森本景文  
第十九回広島演劇祭 高田美智

「花咲くチェリイ」(関芸) 中谷 稔  
戯曲 星をみつめて 土屋 清

第十三号(一九六九年十一月)

なかまの素顔 坂本里子さん(月曜会)  
東西演劇総会、セミナー特集  
山崎欣太・猿渡公一

リアリズム演劇についての試論 田畑実  
劇評  
「怒りのウインチ」(大阪自立演)

「京芸」両劇団健在なり 萩坂桃彦  
「ベトナム」をみている 道井直次

「硝煙なき戦場」(労芸) 小竹伊津子  
劇団桑の実の報告 小沢 清  
名古屋演劇地元劇団例会 横田孝志  
若尾正也

- 演劇制作スタッフ派遣 ● 舞台用器材貸出・販売
- 舞台照明操作・プラン作製・一式引受



組合や会社の文化祭・サークルの発表会のとき  
どんなご相談でも気軽にお申越してください。

特にサークルのごときは、サークルの身になって  
いろいろな経験を生かし、経費の点もご便宜をは  
かります。……………ぜひどうぞ!!

株式会社 第一ステージサービス

東京都渋谷区代々木2-12・西原ビル TEL.03-370-0487(代表)

■あ と が き■

大変お待たせしました。本当にやっとなり感じですが、これ  
もずいぶんがんばったわけでした。  
がんばったのは、何も編集部だけというわけではありません。東  
西演劇の、70演劇行動のセンターを中心とした組織的な活動、作品  
参加で26篇もの協力をみせた書き手たち、それを支えた全国の仲ま  
たちの心の寄せ合い、そのものが、大きな胎動となって、この戯曲  
集を生み出したわけでした。  
運動のうねりの中から作品が生れるーもっとも望ましいことがこ  
こでは勝ちとられたといえます。ついでにもう一つ勝ちとりたいこ  
とー財政の確保。迷わず、ためらわず、誌代をお願いいたします。  
八月には、東西合同のセミナーが、京都でもたれます。この戯  
曲集は、そこで討議資料としても役立つとおもいます。(もも)

演劇会議 別冊 一九七〇年二月一日発行  
定価 一八〇円(送料三五円)

編集委員 萩坂桃彦・山村金平・黒沢参吉  
森本景文・藤沢 薫・大西 衛  
赤松比洋子

発行所 演劇会議 発行所  
川崎市上平間一二七五  
電話川崎 八八八一五

印刷所 幸栄印刷株式会社  
横浜市港南区上大岡町40